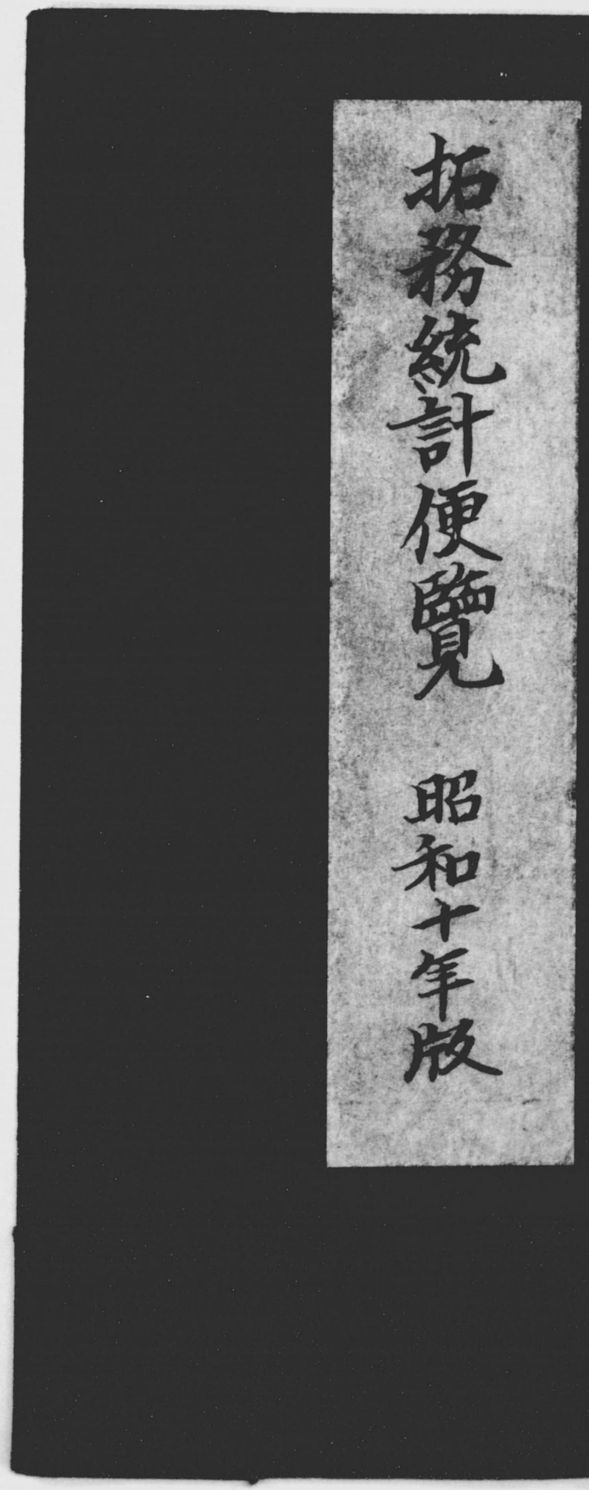


14.4
1082

0007317000

0007317-000

14．4－1082

拓務統計便覧

拓務大臣官房文書課・編

拓務大臣官房文書課

昭和１０年版

昭１１

ABH

14.4
1082

拓務統計便覽

昭和十年版

拓務大臣官房文書課

拓務統計便覽

凡例

一　本書は拓務行政に關聯する主要事項につき要數を摘錄し尙必要に應じ簡單なる說明を附したもので此等事項に關する細密なる統計は別に刊行する「拓務統計」を參照せられ度い

一　本書は概ね昭和九年の數字を基礎としたるも特殊の事項については既往の數字を揭げて比較に便ならしめ尙參考として內地の數字をも竝載したり

一　關東州及南滿洲鐵道株式會社に關する事項は對滿機構の改定ありたるを以て削除することゝしたるも二三の事項については之が計數を揭げ利用の便に資することゝしたり

一　本書諸表中の年度とあるは會計年度（四月一日より翌年三月三十一日迄）を示し他は曆年に依る

一　本書諸表中計數の單位に滿たざるものは（〇）を以て示し該當事項なきもの又は不明のものは凡て－を以て示す

昭和十年十二月

拓務大臣官房文書課

目次

地圖

朝鮮 …… 一
臺灣 …… 二
樺太 …… 三
南洋群島 …… 四

一 土地

一 經度及緯度 …… 五
二 面積 …… 七

二 氣象 …… 一一

三 氣象 …… 一三

四 人口

一 世帶及人口 …… 一五
二 現住總人口 …… 一六
三 現住人口民籍別 …… 一七
四 現住人口職業別 …… 一八
五 現住內地人人口 …… 二一
六 出生及死亡 …… 二一
七 自然增加 …… 二一

一一 婚姻及離婚……一九
一二 主要都市人口……二〇

行政

一三 行政區劃……二五
一四 職員……二六
一五 警察官署及職員……二八

司法

一六 民事事件……二九
一七 登記……三一
一八 刑事事件……三二

教育

一九 教育機關……三三

宗教

二〇 神社及神職……三七
二一 布教所布教者及信徒……三八

衛生

二二 醫療機關……三九
二三 傳染病……四〇

財政

二四 特別會計歲入歲出……四三

二五 國庫補充金……四五
二六 國稅收入額……四七
二七 國債及借入金……四九
二八 專賣收入……五〇

產業

二九 耕地面積及農業者……五一
三〇 農產物……五三
三一 養蠶……五五
三二 家畜及家禽……五八
三三 林野面積……五七
三四 林產物……五八
三五 水產業者……五九
三六 漁獲物……六〇
三七 水產製造物……六一
三八 製鹽……六二
三九 鑛產物……六五
四〇 工場……六六
四一 工產物……六八

會社

四二 會社營業別……六九

四三 會社組織別……七三
金融
四四 銀行……七五
四五 銀行券發行高……七六
四六 金融組合及信用組合……七七
四七 無盡業……七九
四八 預金部地方資金融通高……八〇
四九 郵便貯金……八一
五〇 郵便振替貯金……八二
五一 郵便爲替……八三
五二 簡易生命保險……八四
五三 郵便年金……八五
貿易
五四 貿易額……八七
交通
五五 鐵道……九五
五六 船舶……九七
五七 命令航路……九八
五八 航路標識……九九
通信

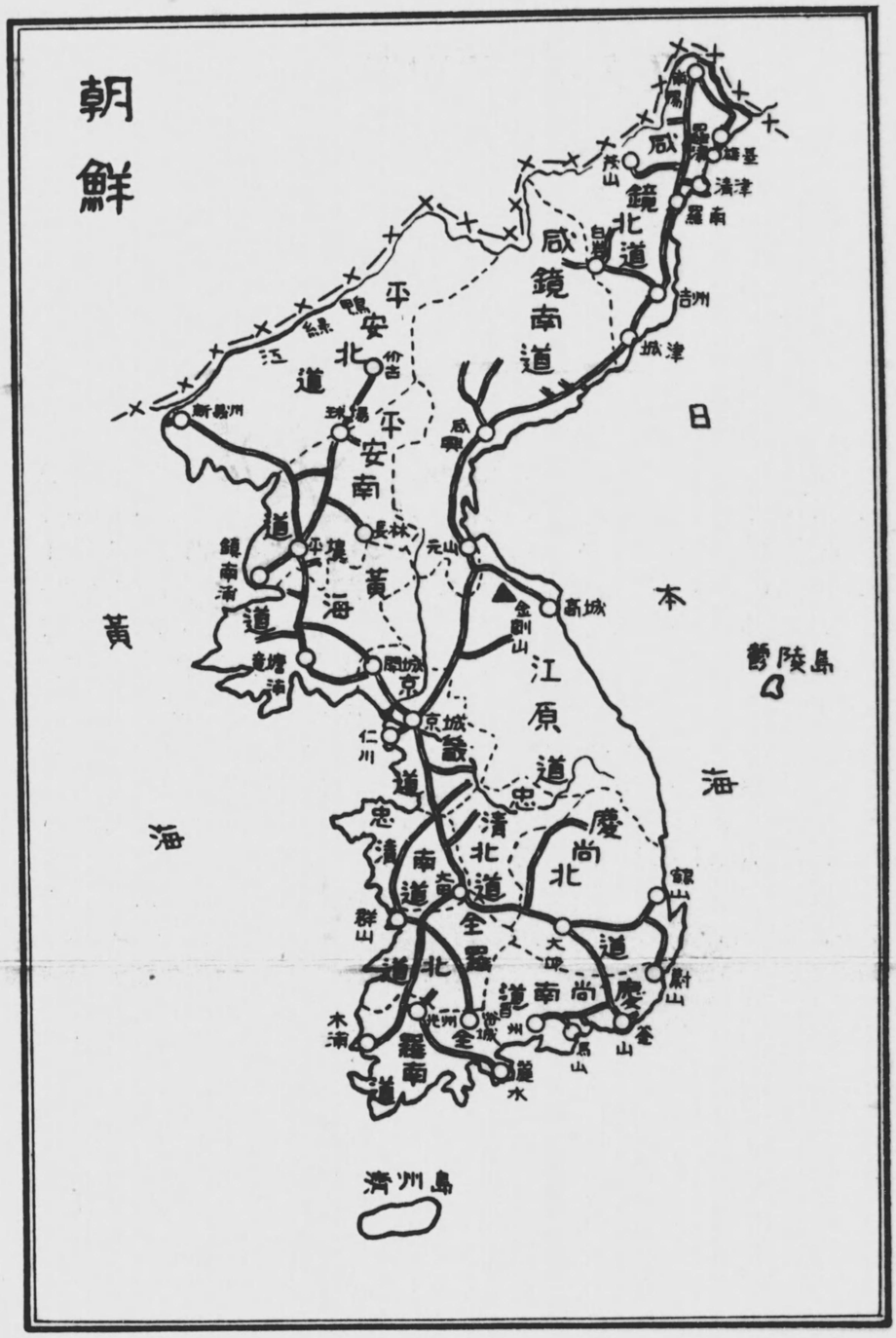
五九 郵便……一〇一
六〇 電信及電話……一〇二
東洋拓殖株式會社
六一 資本及株式……一〇三
六二 貸借對照表……一〇四
六三 損益計算書……一〇六
六四 利益金處分……一〇八
六五 貸付金現在高……一〇九
六六 移住民狀況……一一一
移住
六七 海外渡航者……一一三
六八 渡航地別移民……一一四
六九 目的別移民……一一六
七〇 渡航費補助移民……一一八
七一 海外在留本邦人……一一九
附錄一
拓務省部局分掌一覽
朝鮮總督府及所屬官署一覽
臺灣總督府及所屬官署一覽
樺太廳及所屬官署一覽

地圖

南洋廳及所屬官署一覽

附錄二

度量衡比較表


朝鮮
咸鏡北道
咸鏡南道
平安北道
平安南道
黃海道
江原道
京畿道
忠清南道
忠清北道
慶尚北道
慶尚南道
全羅北道
全羅南道
日本海
黃海
島陵鬱
島州濟

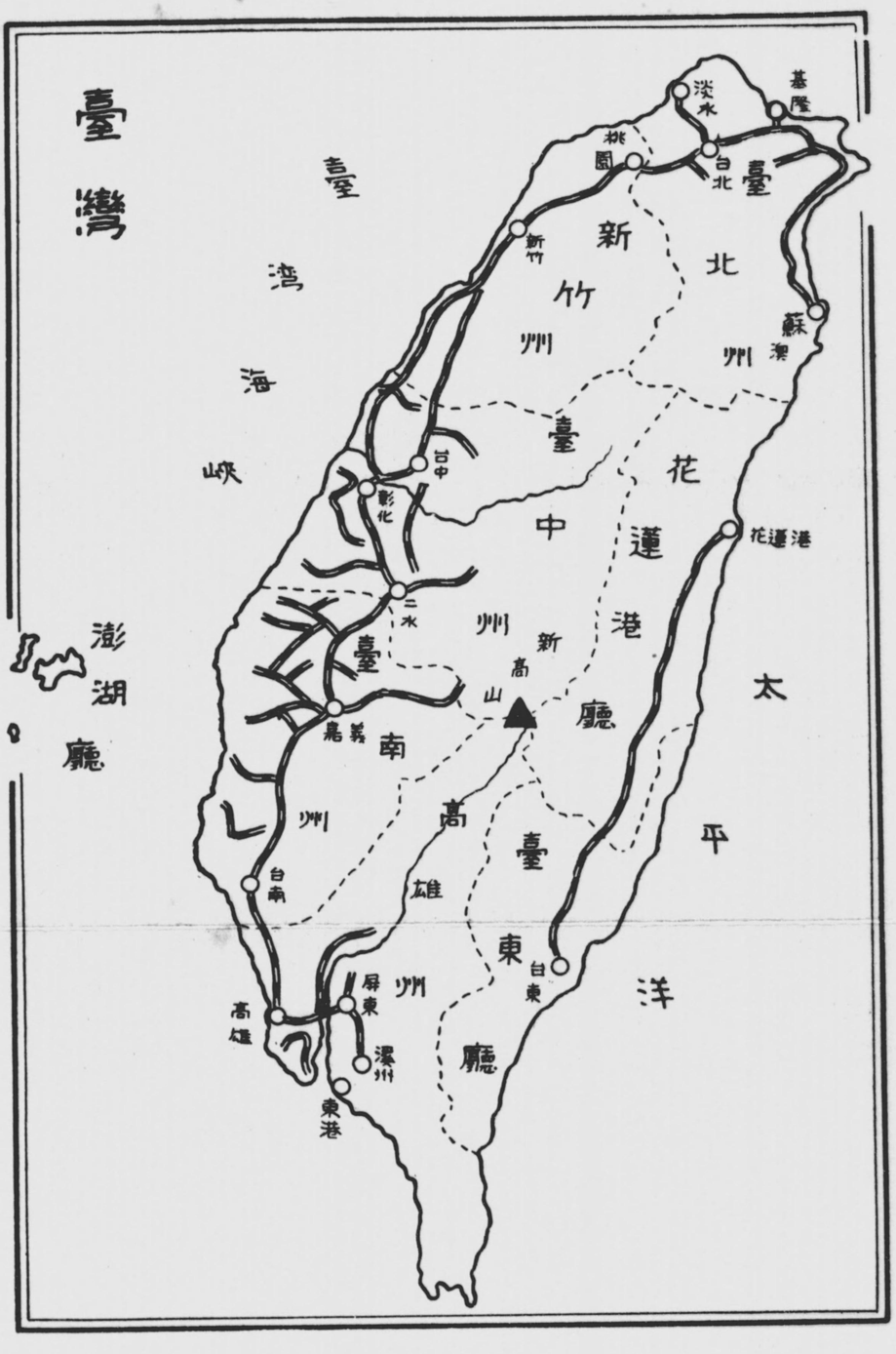
朝鮮

位置　亞細亞大陸の東部に斗出する一大半島である。東は日本海に面し、西は黃海に臨み、南は朝鮮海峽を隔てゝ九州及中國と對し、北は鴨綠・豆滿の兩江に依つて滿洲國及ソビエット聯邦に接して居る。

地勢　概して山地多く、平野は極めて小い。長白山脈東北から西南に連つて北部に國境を形成し、大白山脈東海岸に偏して南方に延び、其他十餘の山脈ともに半島の背梁を成して居る。この背梁山脈の東側は傾斜急で平野殆んど無く、沿岸線の屈曲は極めて著しく、釜山、木浦、仁川等數多の良港に惠まれてゐる。西側は傾斜緩く、諸所に平野を潤き、沿岸線の屈曲に乏しい。之に反して、

氣象　北部は大陸的で寒暑の差が甚しいが、南部は島嶼的で溫和であり、內地の關東地方附近と大差はない。降水量は比較的少量で特に北方に至るに從つて甚しく減少する。全年を通じて降水日數は比較的少ないが、夏季特に七月に集中し、一晝夜間に於いての最大降水量の多いのも其の特色とする。濕度は一般に小で北方に至るに從つて益々乾燥し、江陵、釜山、元山等は南滿洲鐵道附屬地に次いで本邦中最も濕度の小な地方である。

本邦中最も濕度の小なる地方である。



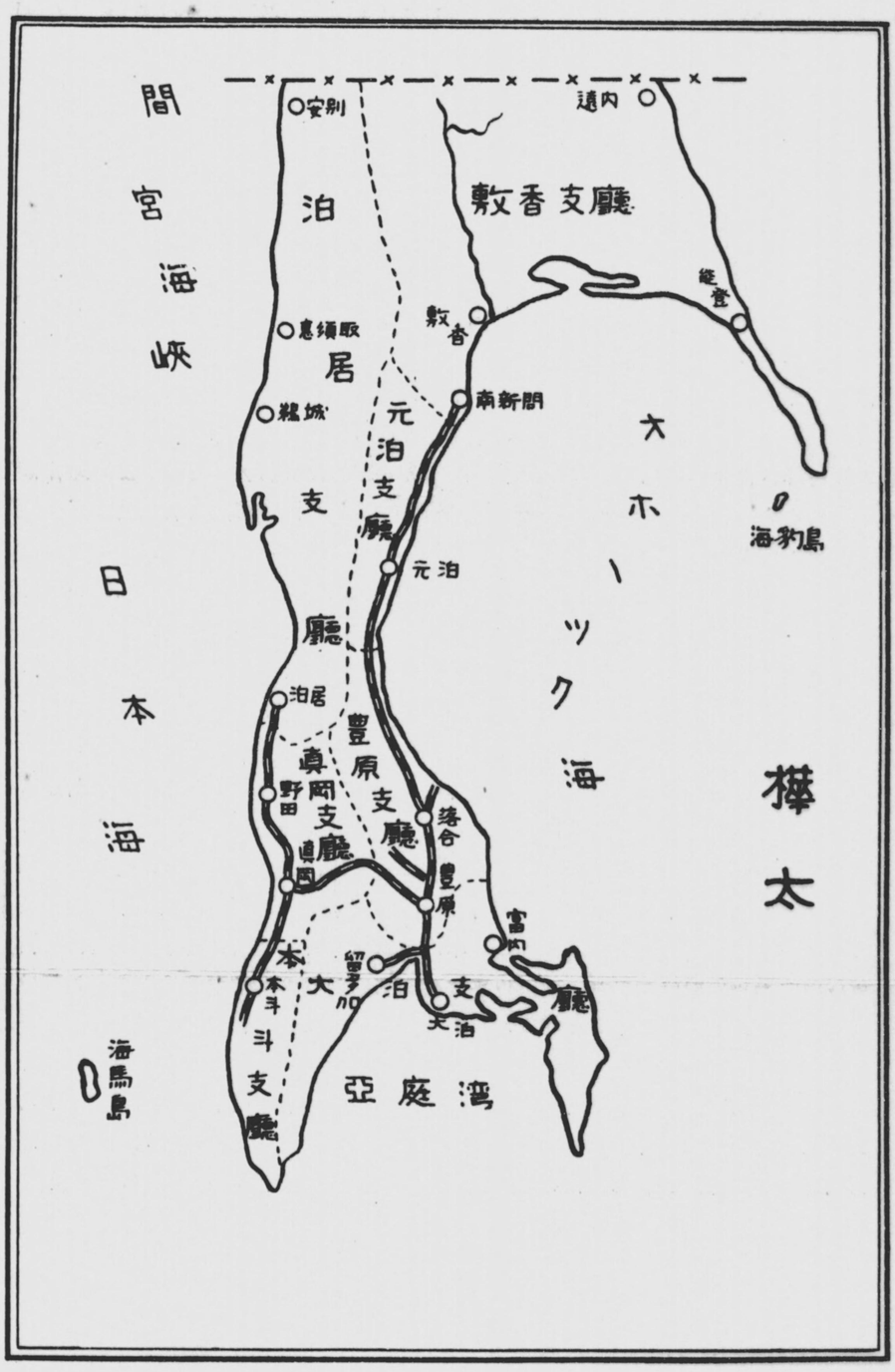
臺灣

位置　九州の南方千百八十粁の海上に横はり臺灣本島、澎湖列島及其他の附屬島嶼から成る。東は太平洋を隔てゝ遠く米大陸に對し、西は臺灣海峽を挾んで支那大陸に接し、南はバッシー海峽を隔てゝ近く比律賓群島を臨む。

地勢　中央山脈稍々東方に偏して南北に貫通し、本島の分水嶺をなして居る。之に竝んで西に蕃界嶺連り、東に一條の凹地を隔てゝ臺東山脈太平洋岸に屹立して居る。東岸は山嶺直に海に沒し、斷崖壁立し、怒濤岸を洗ひ、地形甚だ峻險であるが西岸は平野發達し、數多の河川之を貫き、地味豊穰以て農作を本島の主要産業たらしめてゐる。沿岸線は概して單調であり、港灣に乏しい。

氣象　本島の中央以南が熱帶圏内にあるため氣溫甚だ高く、全島平均氣溫二十度以上に達し、冬季に於てさへ降雪を見る事は極めて稀である。季節は全年を通じて夏と冬との二季より成り、特に夏季は極めて長い。降水量、降水日數共に本邦中最も多く、北部は五月より九月迄の間を兩期とする。本島中雨量の最も多いのは基隆市附近で、世界有數の降雨地として知られてゐる。本島は颱風と稱する熱帶暴風の發生地であつて、往々其の爲に甚大な被害を蒙る事がある。旋風の威力は北方に進むに從つて次第に減退する事を常とし、澎湖島に於ける風力の如きは最も著しい。領臺以來本島に多少なりとも損害を與へたものは實に八十有餘回の多數が算えられる。

くたものは實に八十有餘回の多數が算えられる。



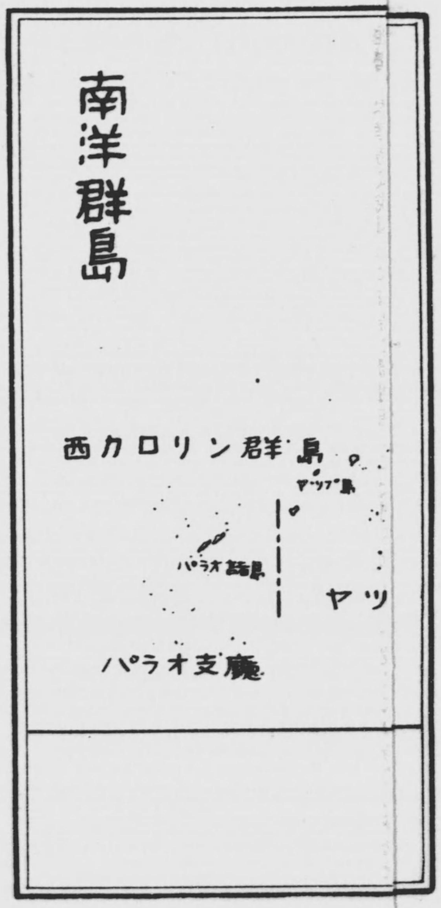
樺太

位置　オホツク海と日本海との間に介在して南北に延び、北端國境より南端西能登呂岬迄四百五十五粁餘に亘る。東はオホツク海を隔て、千島列島と對し西は間宮海峽を隔て、沿海洲と接し、南は宗谷海峽を挾むで北海道に連り、北は北緯五十度を以てソビエット領に界して居る。

地勢　土地高低の狀態から西部山地帶、東部山地帶及中央低地帶の三地帶に區分される。西部山地帶を成すものを西樺太山脈と呼び、東部山地帶を成すものは多來加灣頭より榮濱に至る間海中に沒して居るので自然南北兩地帶に分れて居る、即ち北地帶は東北山脈で南地帶は鈴谷山脈である。中央低地帶は東部山地帶の中絕する處で共に海面下に沒して南北二帶に分れて居る。北中央低地帶は大部分はツンドラと稱する低濕地であり、幌内河の沿岸排水宜き處にのみ僅に森林を見るに過ぎない、一望荒涼たる馴鹿の放牧地である。南中央低地帶には間々低濕の地もあるが、多くは土地肥沃農牧に適して居る。沿岸線は極めて單調であり、處々に緩慢な曲線を畫くのみである。

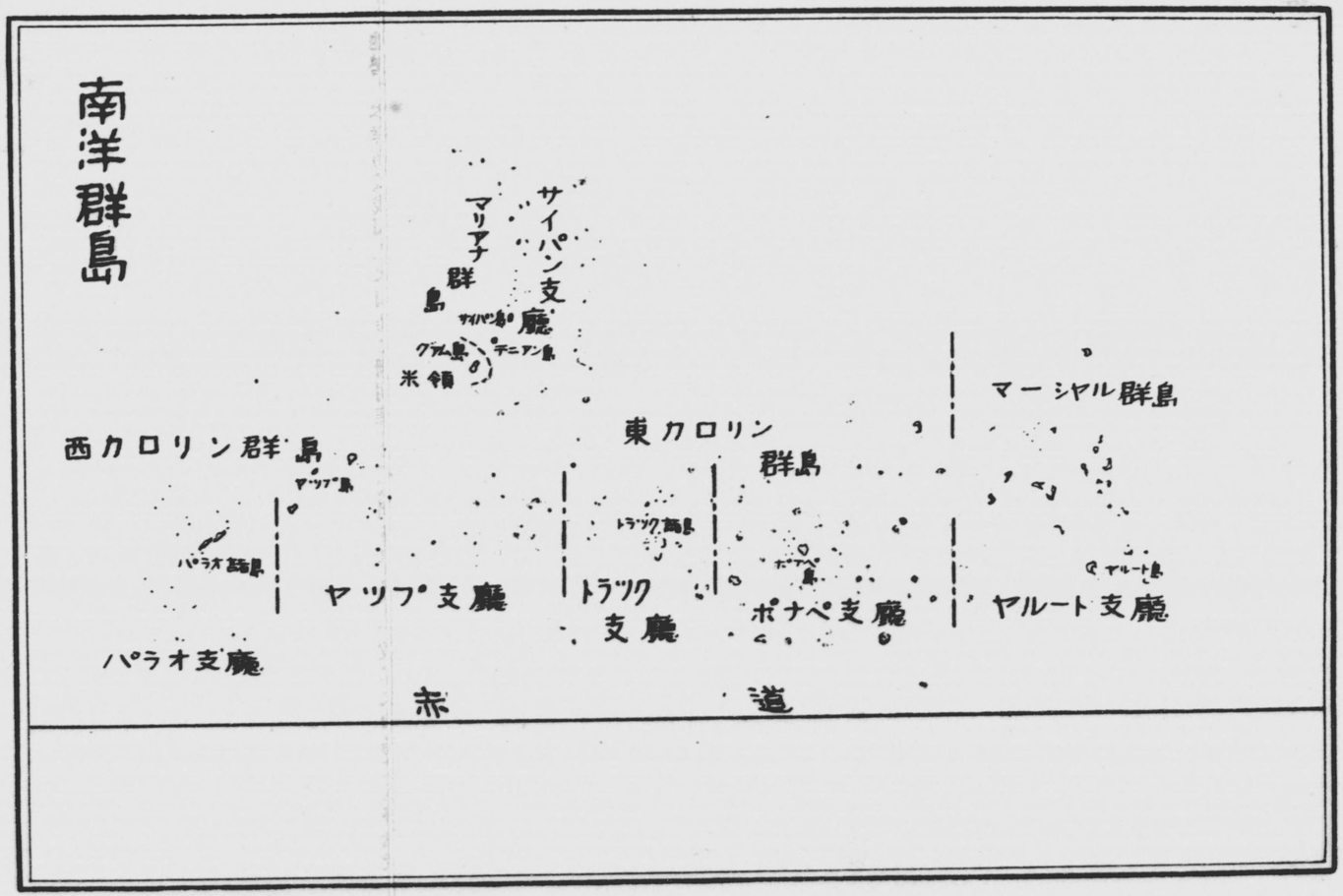
氣象　氣候は極めて寒冷である。本島中比較的良好な南部地方でさへ年平均氣溫四度以上に達する事は稀で、僅に最暖地海馬島及本斗が累年平均に於いて四度を越すに過ぎない。（海馬島累年平均五・二度、本斗累年平均四・五度）敷香の如きは四月に於いてさへ氷點下に在るのみならず累年平均に於いても氷點下〇・二度に位する。蓋し本邦最寒の土地である。

降水量は極めて少く本邦中之に比すべき地は尠ない。之に反して降水日數は比較的多く、年降水日數二百日以上に達する地方が尠くない。濕度は本邦中最も大で從つて濃霧が多い。濃霧は樺太の特徴とも云へる。發生時期は三月より十月に亘り、最盛期は夏季六・七・八月の頃で、特に東岸に於て甚しく濃霧のため咫尺を辨ぜぬ事も屢々である。併しながら、其の濃密の度は北海道根室附近のものよりは稍々小である。



降水量は極めて少く本邦中之に比すべき地は渺ない。之に反して降水日數は比較的多く、年降水日數二百日以上に達する地方が渺くない。濕度は本邦中最も大で從つて濃霧が多い。濃霧は梅太の特徴とも云へる。發生時期は三月より十月に亘り、最盛期は夏季六・七・八月の頃で、特に東岸に於て甚しく濃霧のため咫尺を辨ぜぬ事も屢々である。併しながら、其の濃密の度は北海道根室附近のものよりは稍々小である。

南洋群島



土地

豪雨沛然として來り、悠忽として去る、所謂「スコール」である。本群島は内地若しくは臺灣を襲ふ颱風の發生地ではあるが、低氣壓幼年期に屬するものが多く、所謂暴風に達することは稀である。然しながら島嶼悉く狹小なため一旦暴風の襲來を受けると其の被害は極めて甚だしい。本群島の多くは珊瑚礁であるため清水に乏しく、殊にマーシャル群島の如きは飲料水は大部分天水を使用して居る。

土地

豪雨沛然として來り、忽忽として去る、所謂「スコール」である。本群島は内地若しくは臺灣を襲ふ颱風の發生地ではあるが、低氣壓幼年期に屬するものが多く、所謂暴風に達することは稀である。然しながら島嶼悉く狹小なため一旦暴風の襲來を受けると其の被害は極めて甚だしい。本群島の多くは珊瑚礁であるため清水に乏しく、殊にマーシャル群島の如きは飲料水は大部分天水を使用して居る。

14.4-1082

一 經度及緯度

朝鮮	東經	極東	慶尙北道鬱陵島竹島東端	一三〇・五六度
		極西	平安北道龍川郡薪島面馬鞁島西端	一二四・一一
	北緯	極南	全羅南道濟州島大靜面馬羅島南端	三三・〇六
		極北	咸鏡北道穩城郡柔浦面北端	四三・〇〇
臺灣	東經	極東	臺北州基隆市棉花嶼東端	一二二・〇六
		極西	澎湖廳望安庄花嶼西端	一一九・一八
	北緯	極南	高雄州恒春郡恒春庄七星岩南端	二一・四五
		極北	臺北州基隆市澎佳嶼北端	二五・三八
樺太	東經	極東	東海岸北知床岬	一四四・四四
		極西	海馬島西端（釣鐘鼻）	一四一・一三
	北緯	極南	西能登呂岬	四五・五三
		極北	國境	五〇・〇〇
南洋群島	東經	極東	ヤルート支廳區ミレ島ナーリキリツク島	一七二・一〇
		極西	パラオ支廳區トコベイ島	一三一・一〇
	北緯	極南	ポナペ支廳區グリーニツチ島	一・一五
		極北	サイパン支廳區ウラカス島	二〇・三二

關東州	東北	經極東	一二三・一三	貔子窩海洋島會灣西屯南牦子東端
		經極西	一二〇・五八	旅順山東會西湖嘴屯蟒島
		緯極南	三八・四〇	旅順方家屯會單家屯圓島
		緯極北	三九・三四	普關庄朝陽寺會宮家屯
內地	東北	經極東	一五六・三〇	根室支廳占守郡占守島東崎
		經極西	一三三・五六	沖繩縣八重山郡與那國島西崎
		緯極南	二〇・二五	小笠原島沖ノ鳥島南端
		緯極北	五〇・五五	根室支廳占守郡阿頼度島最北崎

二　面積

總計	六八一、二六六・六〇	一〇〇・〇〇%
外地	二九八、四二一・一八	四三・八六
朝鮮	二三〇、七六八・六五	三三・四一
臺灣	三五、九六一・二一	五・一八
樺太	三六、〇八九・七七	五・三〇
南洋群島	二、一四八・八〇	〇・三二
關東州及鐵道附屬地	三、七五二・七五	〇・五五
內地	三、四六二・四五	〇・五一
州鐵道附屬地	二九〇・三〇	〇・〇四
內地	三八二、五四五・四一	五六・一四
本州	二三〇、五三二・三一	三三・八二
四國	一八、七七二・八三	二・七五
九州	四三、〇七八・九九	六・一八
北海道	八八、七七五・〇四	一三・〇三
琉球	二、三八六・二四	〇・三五

氣象

三　氣　象

（本表中＊印は零下を、×印は減、△印は零度以下を示す）

測候所	平均氣壓（粍）	氣溫（攝氏） 平年ト平均ノ差		氣溫（攝氏） 最高極	氣溫（攝氏） 最低極	濕度％（昭和九年）	降水量（粍）（昭和九年） 總量	降水量（粍）（昭和九年） 平年ト總量ノ差	降水量（粍）（昭和九年） 最大日量	風速度（米秒） 平均	風速度（米秒） 最大	天候日數 快晴	天候日數 降水
朝鮮													
木浦	七六三・一	一三・八	×〇・四	三四・五△	八・八	七三	一、四一二・九	＊三四六・五	一七八・六	四・〇	三〇・四	四五	一三四
釜山	七六二・〇	一三・〇	×〇・六	三一・六△	九・九	六四	一、七七二・五	＊三五一・四	一六五・七	四・四	二五・六	七五	九七
全州	七六二・九	一一・七	×〇・四	三五・一△	一五・五	七五	一、七一二・四	＊四七九・〇	一〇七・八	一・六	一一・七	五〇	一三〇
京城	七六二・八	一〇・二	×〇・八	三三・四△	一八・七	六八	一、二四四・六	× 一八・一	九七・二	二・九	一四・〇	八三	一一五
平壤	七六三・〇	八・九	×〇・三	三三・三△	二〇・七	七四	一、四九五・二	＊五七四・九	一二三・一	二・二	一四・九	九二	一二〇
城津	七六一・六	七・九	〇・〇	二八・〇△	一六・一	七二	九八四・七	＊二六七・六	一一六・五	二・七	一五・三	九一	一〇八
中江鎭	七六二・〇	三・八	＊〇・三	三一・九△	三四・八	七五	八四七・八	＊ 五一・二	五五・七	一・三	一一・三	六七	一三三
臺灣（昭和九年）													
恒春	七五九・六	二四・二	×〇・二	三三・一	一二・六	七六	二、七五八・四	＊五八三・七	三六五・六	五・三	二〇・七	二一	一四〇
臺東	七六〇・二	二三・〇	×〇・四	三七・三	九・二	七八	二、五二九・〇	＊七四四・三	二八九・五	三・一	三二・七	二〇	一五三
臺南	七五九・五	二三・一	〇・〇	三五・七	三・六	八〇	一、六六一・六	× 六三・一	三四七・四	三・一	一四・三	五一	九二
花蓮港	七六〇・九	二三・一	×〇・三	三四・四	八・八	八一	一、六六三・三	×四二四・六	一四一・八	二・四	一四・六	一八	二〇八
臺中	七六〇・三	二三・一	〇・〇	三六・〇	〇・四	八〇	一、三三六・三	×四一九・六	二七三・一	一・六	一〇・六	三五	九九
臺北	七六〇・七	二一・七	〇・〇	三七・二	二・六	八一	一、四九八・九	×六二九・九	七五・二	三・〇	一八・五	三〇	一八四

測候所	平均氣壓(粍)	氣溫(攝氏) 平均	平年ト ノ差	最高極	最低極	濕度%	降水量(粍) 總量	平年ト ノ差	最大日量	風速度(米秒) 平均	最大	天候日數 快晴	降水
樺太 (昭和九年)													
大泊	七五八・二	三・九	一・〇	二四・九	△二〇・二	八二	七七九・三	＊四九・二	三七・九	四・八	二六・三	三八	一五一
眞岡	七五八・三	四・六	〇・七	二六・〇	△一五・五	七七	七一一・〇	×四〇・一	三九・二	四・三	二六・三	二五	一九八
敷香	七五八・三	一・七	一・五	三一・〇	△二八・七	七七	七一七・三	×四四・二	四四・五	二・七	一八・四	六三	一三三
安別	七五八・三	二・二	一・一	二三・〇	△三・七	八一	六四〇・四	×八九・六	二五・八	三・七	二〇・二	三二	一六九
豊原	七五八・三	三・一	〇・一	二八・五	△二五・八	八二	七七一・六	× 七・〇	五三・五	三・七	二四・五	五五	一六四
南洋群島 (昭和九年)													
パラオ	七五六・一	二六・九	〇・〇	三一・四	二一・九	八二	四、〇五九・八	＊ 九八・七	一四五・〇	二・二	九・四	—	二九三
サイパン	七四二・三	二五・六	〇・一	三〇・六	一九・六	八三	二、八〇四・二	＊六五〇・六	一六九・九	四・四	二〇・一	六	二六七
ヤルート	七五八・一	二七・八	×〇・二	三四・〇	二二・〇	八一	四、一九・五	＊一八七・八	一五八・〇	一・九	—	—	三〇〇
内地 (昭和九年)													
札幌	七五九・三	七・一	〇・一	二九・五	△二〇・五	七七	一、〇〇一・七	× 四〇・九	五七・五	二・九	二一・四	二三	一九二
石巻	七六〇・三	一〇・二	×〇・七	三〇・五	△八・九	八〇	一、三〇九・〇	＊一八八・四	一〇〇・九	二・五	一四・五	三三	一四七
東京	七六〇・八	一三・九	〇・〇	三五・三	△五・六	七二	一、二四六・七	×三三七・〇	六七・〇	二・八	二二・三	五七	一三二
大阪	七六一・六	一四・八	×〇・三	三六・六	△四・八	七三	一、〇六六・八	×二八八・六	八五・一	二・七	二九・八	五二	一一三
福岡	七六二・四	一四・八	×〇・一	三四・四	△五・六	七五	一、三六四・六	×二一七・九	一五〇・一	二・五	一三・六	三四	一三八

臺灣に於ける內地人は改隸以來の移住者であつて、本地人は漢人種と蕃族とに分つことが出來る。前者は本島住民中の九割餘を占め、後者は本島內の最も古い種族で生蕃、化蕃と熟蕃との三種族に分れ更に生蕃、化蕃はタイヤル、サイセット、ツオー、ブヌン、アミ、ヤミ及パイワン族の七種族に分類され、各其の言動、風俗を異にして居る。

樺太の現住人口は其大部分は內地人であつて極めて少數の朝鮮人、本地人、外國人が居る。本地人はアイヌ、オロツコ、ニクブン、キーリン、サンダー、ヤクートの六種に分れて居る。

南洋群島に居住する種族に就ては或は西方馬來半島より東進したものと傳へられ、或は東方ポリネシヤ族の西進したものとも稱せられ、人種學上總稱してミクロネシヤ族と呼ばれるものが最も多くを占めて居るが固より一定してない。從て彼此言語風俗を異にして居るが大別してカナカ族及チヤモロ族の二種族とする。前者はミクロネシヤ族の一部で、後者はカナカ族と白人との混血とも云はるゝが定說がない。

四　世帶及人口　（國勢調査）

大正九年十月一日

	世帶	人口 總數	人口 男	人口 女	一方粁に付人口	五ケ年間の增加人口 實數	五ケ年間の增加人口 割合
總數	—	七七、九六〇、一六九	三九、五一四、七二八	三八、四四五、四四一	一一五	—	—
朝鮮	三、二九七、一二六	一七、二六四、一一九	八、九〇三、〇〇〇	八、三六一、一一九	七八	—	—
臺灣	六八五、二二五	三、六五五、三〇八	一、八九三、五四一	一、七六一、七六七	一〇二	—	—
樺太	二一、四六一	一〇五、八九九	六二、三二七	四三、五七二	三	—	—
南洋群島	—	五二、二二二	二八、〇一〇	二四、二一二	二一	—	—
關東州及鐵道附屬地	一四四、五〇六	九一九、五六八	五八三、六六五	三三五、九〇三	二五四	—	—
州內	一〇五、四〇七	六八八、一三〇	四〇九、九七二	二七八、一五八	二〇四	—	—
鐵道附屬地	三九、〇九九	二三一、四三八	一七三、六九三	五七、七四五	九五六	—	—
內地	一一、二二一、四三六	五五、九六三、〇五三	二八、〇四四、一八五	二七、九一八、八六八	一四七	—	—

備考　朝鮮の計數は公簿調査による

大正十四年十月一日

	人口	世帶	總數	男	女	一方粁に付人口	實數	五ケ年間の増加人口 割合(%)
總	數		一八四、五六七、二九七	四二、八八三、六九一	四一、六八二、六〇六	二三四	六、六〇七、二八	八・四
朝	鮮		三、七二〇、七七三	一九、五二二、九四五	一九、二九七、八二八	八八	二、二五八、八二六	一三・一
臺	灣		七二六、五三六	三、九九三、四〇八	三、七三八、一〇〇	一二	三三八、一〇〇	九・二
樺	太		三九、一三	二〇三、七五四	一八一、三七五	六	九七、八五五	九二・四
南洋群島及關東州			五六、二九四	三〇、一〇〇	二六、一九四	二六	四、〇七二	七・八
鐵道附屬地			一七三、八五四	一〇、五四一、〇七四	六四四、四九一	二八三	一三四、五〇六	一四・六
內	地		一三、七二三	七六五、七七六	四三九、一一六	三一	七七、六四六	一一・三
鐵道附屬地			五一、一三三	二八八、二九八	二〇五、三七五	八二、九二三	一、一二六	二四・六
內	地		二一、九九九、六〇九	五九、七三六、八三一	三〇、〇一三、一〇九	二九、七三三、七一三	一五七	三、七七三、七六九	六・七

昭和五年十月一日

	人口	世帶	總數	男	女	一方粁に付人口	實數	五ケ年間の増加人口 割合(%)
總	數		一八、〇一七、四九二	九一、七九二、六八〇	四六、五二四、八一二	二三五	七、二三六、五八二	八・三
朝	鮮		三、九八五、九五三	二一、〇五八、三〇五	一〇、七六三、六七九	九五	一、五三五、三六〇	一一・六
臺	灣		八〇八、四六一	四、五九二、五三七	二、三五三、二八八	二八	五九、八七四	一五・〇
樺	太		五九、八七四	二九五、一九六	一六八、五三二	八	九一、四四二	四四・九
南洋群島及關東州			一五、〇一九	六九、六二六	三七、九二九	三一	一三、三三一	二三・七
鐵道附屬地	內		二三一、一四五	一、三八、〇一一	八〇九、〇四四	五一八、九六七	三五五	二七五、九三七	二六・〇
鐵道附屬地			一五五、六三七	九五五、七四一	五五三、一七五	四〇三、五六六	二七	一八九、九六五	二四・八
內	地		六五、五〇八	三七一、二七〇	二五六、八六九	一一五、四〇一	一、三二九	八三、九七二	二九・一
			一三、七〇五、八九六	六四、四五〇、〇〇五	三三、二五九、八五〇	一六九	四、七一三、一八三	七・九

昭和十年十月一日

	世帶數	人口 總數	人口 男	人口 女	一方粁に付人口 實數	一方粁に付人口 割合(%)	五ヶ年間の増加人口
總數	一八、七六一、四七三	九七、六四四、六二八	四九、二四〇、六五九	四八、四〇三、九六九	一四五	七、二九八、五八五	八・一
朝鮮	四、二九七、八〇三	二三、八九八、六九五	一一、六六二、八四〇	一一、二三六、〇五五	一〇四	一、八四〇、三九〇	八・七
臺灣	八九八、六四五	五、二一二、七一九	二、六五九、九二八	二、五五三、七九一	一四五	六二〇、一八二	一三・五
樺太	六五、五四二	三三一、九四九	一八六、二三八	一四五、七一八	九	三六、七五三	一二・五
南洋群島及關東州	二三、一八二	一〇三、二三八	五七、一二三	四五、一一六	四八	三三、六一二	四六・八
鐵道附屬地內	二七六、六五一	一、六五六、七六三	九九五、一八八	六六一、五七五	四四一	三三八、七五二	二四・八
鐵道附屬地內	一八五、二七七	一、一三四、〇七四	六五五、四六六	四七八、六〇八	三二八	一七八、三三二	一八・七
地	九一、三七四	五三二、八八九	三三九、七二三	一八二、九六七	一、七五四	一五〇、四一九	四〇・四
地	一三、四九九、四八三	六九、二五一、二六五	三四、七三二、八六〇	三四、五一九、四〇五	一八一	四、八〇一、二六〇	七・四

備考　國勢調査速報による

五　現住總人口

一實數

	總數	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州及鐵道附屬地
明治二十九年	二、五八七、六八八	—	—	—	—	—
同三十四年	二、九三一、〇九八	—	—	—	—	—
同三十九年	三、五五三、八二三	(明治四十二年)一三、〇九〇、八五六	—	—	—	—
同四十四年	一八、〇〇九、〇〇九	一四、〇五五、八六九	一、二三、三六一	二、五八七、六八八	—	—
大正五年	二〇、九六八、二三六	一六、六四八、一二九	三、五九六、一〇九	二、九三一、〇九八	—	—
同十年	二三、二八八、一二六	一七、四五二、九一八	三、八三五、八一一	三、五五三、八二三	—	—
昭和元年	二四、六六五、五四九	一九、一〇三、九〇〇	四、二四一、七五九	三、九六八、二三六	—	—
同五年	二六、五八一、三九六	二〇、二五六、五六三	四、六七九、〇六六	三、五九六、一〇九	—	—
同七年	二七、三二七、八〇四	二〇、五九九、八七六	四、九二九、九六二	三、八三五、八一一	—	—
同八年	二七、六四三、一三三	二〇、七九一、三二一	五、〇六〇、五〇七	四、二四一、七五九	—	—
同九年	二八、三三、一八八	二一、一五五、八一七	五、一九四、九八〇	四、六七九、〇六六	—	—
一方粁の密度(昭和九年)	九四・五	八・七	一四四・四	一四・二	三九九・一	

備考　昭和九年に於ける内地の推計人口は六八、一九四、九〇〇にして一方粁の密度は一七八・四である

二　指數

	總數	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州及鐵道附屬地
明治二十九年	一〇〇	—	—	—	—	—
同　三十四年	一一三	—	—	—	—	—
同　三十九年	一二三	（明治四十二年）一〇〇	—	—	—	（明治三十八年）一〇〇
同　四十四年	一三〇	二九七	（大正九年）一〇〇	—	—	一四六
大正　五年	一三九	五三六	九九	一一〇	一三三	一七五
同　十年	一四八	八三八	一一〇	一三三	一五〇	二二四
昭和　元年	一六四	一、六四七	一一〇	一三三	一五〇	二八三
同　五年	一八一	二、三〇五	一一〇	一三三	一五〇	三四四
同　七年	一九一	二、三七二	一一〇	一三三	一五〇	三五三
同　八年	一九六	二、四二九	一一〇	一三三	一五七	三七六
同　九年	二〇一	二、五三三	一一〇	一三三	一五七	四〇〇

備考　內地は明治二十九年を一〇〇とすれば昭和九年の指數は一六〇となる

三　比例

各地域の總數に對する比例	一〇〇	七四・九	一八・四	一・一	〇・三	五・三

六　現住人口民籍別

昭和九年末現在（南洋群島は十月一日現在）

	總數	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州及鐵道附屬地
一實數	二八、二三、一八八	二一、二三五、八二七	五、一九四、九八〇	三三、一三〇	九〇、六五一	一、四九七、六〇〇
總數	一四、五二三、九二七	一〇、七四四、四二九	二、六五六、〇九八	一七五、一九四	五〇、二〇八	八八六、九〇八
男	一三、七〇九、二九一	一〇、五八一、三八八	二、五八八、八八二	一三七、九二六	四〇、四〇二	六一〇、六五二
女百ニ付男數	一〇五・九	一〇三・五	一〇四・六	一二七・〇	一二四・四	一四五・二
內地人總數	一、四八四、〇八九	五六一、三七八	二、六二一、八四四	二三四、九九五	一七〇、一八八	三一四、八六七
男	七八九、一三七	二八七、九五九	一、三八八、一六	一三八、八一六	一三四、八〇七	一六八、一七六
女	六九四、九五二	二七三、四一九	一、三一六	九六、八七八	三五、八七〇	一四六、九八一
朝鮮人總數	二〇、五五一、八九一	二〇、五一三、八〇四	四七〇	三、八二五	三〇、五六三	
男	一〇、四三七、〇二四	一〇、四一六、〇四〇	八四六	二、〇五三	二六、四七三	一六、四七三
女	一〇、一一四、八六七	一〇、〇九七、七六四	四、七九〇、九二三	一、四三八、六〇〇	四、〇九〇	一四、〇九〇
臺灣人總數	四、七九〇、九二九	六	二、四三八、六〇〇	一	—	—
男	二、三五二、三二四	五	二、三五二、三二三	一	—	—
女	二、四三八、六〇五	一	一	—	—	—
樺太人總數	一四三、六五九	—	九一、三六五	一、九五八	五〇、三三六	一、四九七、六〇〇
男	七三、一四五	—	四六、一七一	一、〇〇八	二五、九六六	八八六、九〇八
女	七〇、五一四	—	四五、一九四	九五〇	二四、三七〇	六一〇、六五二
土人又は島民	—	—	—	—	—	—
男	—	—	—	—	—	—
女	—	—	—	—	—	—

	總數	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州及鐵道附屬地
滿洲國人及中華民國人 總數	一、一四九、九四九	四九、三三四	四八、一九三	七二	—	一、一四九、九四九
男	七〇一、〇八六	三九、七七五	三一、九二六	六五	—	七〇一、〇八六
女	四四八、八六三	九、五五九	一六、二六七	七	—	四四八、八六三
其他の外國人 總數	一〇一、六七一	一、三〇五	二一九	二二七	一〇〇	二、二二一
男	七三、九三〇	六六〇	一一五	一〇八	六八	一、二一三
女	二七、七四一	六四五	一〇四	一一九	三二	一、〇〇八

備考　臺灣の蕃人は蕃地居住者のみで、南洋の外國人は滿洲國人、中華民國人及其他の外國人の合計である。

二　比例

（各地域別に總數を百とする比例）

內地人	五・三	二・七	五・一	九七・四	四四・〇	二一・〇
朝鮮人	七二・八	九七・一	〇・〇	一・九	〇・四	二・〇
臺灣本島人	一六・九	〇・〇	九二・二	—	—	—
蕃人土人又は島民	〇・五	—	一・八	〇・六	五五・五	—
滿洲國人及中華民國人	四・一	〇・二	〇・九	—	—	七六・八
其他の外國人	〇・四	—	—	〇・一	〇・一	〇・一

七　現在人口職業別

昭和九年末現在（臺灣、關東州及鐵道附屬地は昭和五年十月一日國勢調査による）

	朝鮮	（割合）	臺灣	（割合）	樺太	（割合）	南洋群島	（割合）	關東州及鐵道附屬地	（割合）
總數	二一、一二五、八二七	一〇〇・〇	四、五九二、五三七	一〇〇・〇	三一三、一三〇	一〇〇・〇	九〇、六五一	一〇〇・〇	一、三二八、〇一一	一〇〇・〇
農林業	一六、一七五、三七三	七六・六	一、一九七、〇七三	二六・一	四八、〇四九	一五・三	三四、二五二	三七・八	一四一、七七八	一〇・七
水產業	三〇二、九八九	一・四	二八、六四三	〇・六	一五、五七六	五・〇	二、二三六	二・五	一三、五一六	一・〇
鑛業	五六九、六六一	二・七	一九、七五六	〇・四	三、九三〇	一・三	三八四	〇・四	二六、三二六	二・〇
工業			一五三、八〇三	三・三	一七、八七四	五・七	三、五四二	三・九	一二九、六〇六	九・八
商業	一、五二八、六一〇	七・二	一七八、三四五	三・九	三四、四四〇	一一・〇	三、四三四	三・八	一四五、三九一	一〇・九
交通業			六三、一四九	一・四	六、三〇五	二・〇	七七二	〇・八	六八、七九六	五・二
公務及自由業	八五七、九七一	四・一	七五、九九六	一・七	七、〇六八	二・三	一、六五三	一・八	四六、一六四	三・五
家事使用人	一、三二七、二一五	六・三	九、八七七	〇・一	二、二二七	〇・七	四八三	〇・五	九、九九六	〇・一
其他有業者			六三、四五四	一・四	一〇、八二七	三・五	二、七六四	三・〇	三八、一五〇	二・八
無職業者及無申告者	三六四、〇〇八	一・七	二、八〇二、四四一	六一・〇	一六六、八三四	五三・三	四一、一三一	四五・四	七〇八、二八八	五三・三

八 現住內地人人口

	總數	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州及鐵道附屬地
一 實數						
明治三十九年	七一、〇四〇	(明治四十三年) 一七一、五四三	七一、〇四〇	—	—	—
同 四十四年	三二〇、四七五	二一〇、六八九	一〇九、七八六	—	—	—
大正五年	六一七、五四三	三二〇、九三八	一四二、四五二	六三、九九〇	(大正九年) 三、四〇三	九〇、一六三
同 十年	—	三六七、六一八	一七四、六八二	一〇一、三二九	—	一四一、七七二
昭和元年	一、〇二三、六八二	四四二、三二六	一九五、七六九	一九七、九六五	八、二九八	一七九、三二四
同 七年	一、三二七、七二二	五二三、四四六	二四七、五六九	二八六、一六三	二八、〇〇九	二四二、五二四
同 八年	一、四〇八、五二六	五四三、〇九九	二五六、三二七	二九八、二一一	三一、九〇〇	二七八、九八九
同 九年	一、四八四、〇八九	五六一、三七八	二六二、九六四	三〇四、九九五	三九、八八五	三一四、八六七
二 指數						
明治三十九年	一〇〇	(明治四十三年) 一〇〇	一〇〇	—	—	—
同 四十四年	四五一	一二三	一、五四五	—	—	—
大正五年	八六九	一八七	二、〇〇五	一〇〇	(大正九年) 一〇〇	一〇〇
同 十年	—	二一四	二、四五九	一五八	—	一五七
昭和元年	一、四四一	二五八	二、七五六	三〇九	二四四	一九九
同 七年	一、八六〇	三〇五	三、四八五	四四七	八二三	二六九
同 八年	一、九八二	三一六	三、六〇八	四六六	九三七	三〇九
同 九年	二、〇八九	三二七	三、七〇二	四七七	一、一七二	三四九
三 比例						
各地域の總數に對する比例	一〇〇・〇	昭和九年 三七・八	一七・七	二〇・六	二・七	二一・二

九 出生及死亡

昭和九年中 (割合は人口千に對するものにして夫々民籍別人口により算出す)

	朝鮮(割合)	臺灣(割合)	樺太(割合)	南洋群島(割合)	內地(割合)
出生					
總數	六二九、四七六	二九・八	二二八、六七六	四四・〇	一一、三四一
內地人	一三、四九八	二四・〇	七、七一八	二九・四	一一、一〇一
本地人	六一五、五七九	三〇・〇	二一九、一八九	四四・九	四五
其他本邦人	—	—	二四	一八・二	一九四
外國人	三九九	七・九	一、七四五	三六・〇	一
死亡					
總數	四〇七、二六三	一九・三	一〇五、一六六	二〇・二	五、一二〇
內地人	八、四四八	一五・〇	二、九五九	一一・三	四、九五四
本地人	三九八、四八二	一九・四	一〇一、二七〇	二〇・七	四五
其他本邦人	—	—	二〇	一五・二	一一八
外國人	三三三	六・六	九一七	一八・九	三

	樺太(割合)	南洋群島(割合)	內地(割合)
出生			
總數	三六・二	三、一三一	三四・五
內地人	三六・四	一、九〇三	四七・七
本地人	二三・〇	一、二一一	二四・一
其他本邦人	三三・〇	一五	四五・五
外國人	三・三	二	二〇・〇
死亡			
總數	一六・四	一、六四二	一八・一
內地人	一六・二	五三四	一三・四
本地人	二三・〇	一、一〇二	二一・九
其他本邦人	二〇・一	四	一二・一
外國人	一〇・〇	二	二〇・〇

	內地(割合)
出生	
總數	二、〇四三、七八三
內地人	二九・九七
本地人	—
其他本邦人	—
外國人	—
死亡	
總數	一、二三四、六八四
內地人	一八・一一
本地人	—
其他本邦人	—
外國人	—

一〇 自然增加

昭和九年中 （本表中×印は減を示す）

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州及鐵道附屬地
總數	三三四、五〇六	一三四、四七三	一二、八三二	八、三九九	八八、八四五
前年の總人口に對する割合	〇・〇一六	〇・〇二七	〇・〇四三	〇・〇一〇	〇・〇六三
前年との差	一四三、〇六一	三、九二八	五、七〇六	四、六〇四	三、九五六
內地人	一八、二七九	六、六三七	一一、八二七	七、九八五	三五、八七八
前年の總人口に對する割合	〇・〇三四	〇・〇二六	〇・〇三九	〇・〇二五	〇・一二九
前年との差	× 一、三七四	× 二、一二一	四、八二三	四、〇九四	× 五八七
本地人	三〇八、二一三	一二三、〇九一	一二一	四〇一	五二、四〇八
前年の總人口に對する割合	〇・〇一五	〇・〇二六	〇・〇〇七	〇・〇〇八	〇・四七八
前年との差	一三九、八九五	三、一二〇	二二一	五三五	四、一九四
其他本邦人	一	一二五	八三五	一六	五二三
前年の總人口に對する割合	〇・二〇〇	〇・一〇五	〇・〇二七	〇・〇五一	〇・〇一七
前年との差	二	× 一〇七	五七九	× 一六	四四一
外國人	八、〇一三	四、六二〇	四九	× 三	三六
前年の總人口に對する割合	〇・一八八	〇・一〇五	〇・〇一六	〇・〇二九	〇・〇一六
前年との差	四、五三八	三、〇三六	八四	× 九	× 九二

備考 前年の總人口に對する割合は夫々民籍別人口により算出す。

一一 婚姻及離婚

昭和九年中 （割合は人口千に對するものにして夫々民籍別人口により算出す）

	朝鮮	（割合）	臺灣	（割合）	樺太	（割合）	南洋群島	（割合）	內地	（割合）
婚姻										
總數	一二一、三八三	五・七五	四三、四五〇	八・三六	一、八六三	五・九五	—	—	五一二、六五四	七・五二
內地人	二、三三三	四・一六	七六三	〇・一五	—	—	—	—	—	—
本地人	一一九、〇一四	五・八〇	四二、五一四	八・一八	—	—	一、〇〇二	一九・九	—	—
其他本邦人	—	—	一	〇・〇〇	—	—	—	—	—	—
外國人	三六	〇・七一	一七二	〇・〇三	—	—	—	—	—	—
離婚										
總數	五、一三七	〇・二四	三、九八〇	〇・七七	一七六	〇・五六	—	—	四八、六一〇	〇・七一
內地人	八五	〇・一五	一一	〇・〇〇	—	—	—	—	—	—
本地人	五、〇五〇	〇・二五	三、九六四	〇・七六	—	—	二五八	五・一三	—	—
其他本邦人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外國人	二	〇・〇四	五	〇・〇〇	—	—	—	—	—	—

一二 主要都市人口

昭和九年末現在

都市名	位置	總人口	內地人	本地人	其他
朝鮮					
京城府	京畿道	三九四、五一一	一〇九、六七二	二七九、〇〇三	五、八三六
釜山府	慶尙南道	一六三、八一四	五三、三三八	一一〇、二七五	二〇一
平壤府	平安南道	一五九、〇二二	二〇、五八一	一三六、七一五	一、七二六
大邱府	慶尙北道	一〇七、六五七	二六、六〇二	八〇、五五七	四九八
仁川府	京畿道	七五、五六〇	一二、〇五〇	六一、六〇三	一、九〇七
木浦府	全羅南道	五五、六六七	八、五三四	四六、八九六	二三七
開城府	京畿道	五三、六一四	一、五六六	五一、八七一	一七七
新義州府	平安北道	五一、三三八	八、〇〇七	三七、四九五	五、八三六
元山府	咸鏡南道	五四、五七四	一〇、一三六	四三、五六〇	八七八
鎭南浦府	平安南道	四五、五八二	五、四二三	三九、五三七	六二二
咸興府	咸鏡南道	四四、六一二	八、一七三	三六、〇三六	四〇三
淸津府	咸鏡北道	四二、二二一	九、五一〇	三一、九二三	七八八
全州府	全羅北道	三九、八七七	五、八八四	三三、六七二	三二一
光州府	全羅南道	三八、〇〇八	七、一〇一	三〇、七四七	一六〇
太田府	忠淸南道	三四、五三二	八、五六八	二五、八二三	一五一

臺灣					
臺北市	臺北州	二八三、〇八五	八一、二七七	一八五、五九四	一六、二一四
臺南市	臺南州	一〇九、八八七	一五、八一〇	九〇、六二七	三、四五〇
基隆市	臺北州	八四、六五〇	二〇、六五五	五九、八五九	四、一三六
高雄市	高雄州	八一、五八二	一九、五九四	五九、九〇八	二、〇八〇
嘉義市	臺南州	七〇、〇八三	九、二七八	五九、〇三五	一、七七〇
臺中市	臺中州	六四、四一四	一五、二三〇	五一、五六六	一、六一八
新竹市	新竹州	五四、一一〇	五、九九三	四七、五五七	五六〇
彰化市	臺中州	五一、一五二	二、六〇四	四七、八五六	六九二
屏東市	高雄州	四一、七一五	五、四四〇	三五、〇〇四	一、二七一
鹿港街	臺中州	四〇、四四三	三六二	三九、八八八	一九三
斗六街	臺南州	三五、八一〇	一、一九一	三四、三三二	二八七
員林街	臺中州	三三、三九九	一、〇〇五	三二、〇三〇	三六四
淸水街	臺中州	三三、一一七	四九七	三二、五一二	一〇八
豐原街	臺中洲	三二、一一〇	九七六	三〇、八七七	二五七
埔里街	臺中州	三〇、一四七	一、〇二九	二八、八九七	二二一
麻豆街	臺南州	二九、九四四	八五九	二八、九五九	一二六

都市名	位置	總人口	內地人	本地人	其他
樺太					
豐原町	豐原支廳管內	三四、一七四	三四、一三八	—	一三六
大泊町	大泊支廳管內	三〇、九一三	三〇、六七七	—	二三六
知取町	元泊支廳管內	一八、九六八	一八、一六四	—	八〇四
惠須取町	泊居支廳管內	二三、四三三	二一、四五三	—	一、九七八
落合町	豐原支廳管內	一七、七一二	一七、六三三	—	八〇
敷香町	敷香支廳管內	三三、六一七	三〇、八一八	六五八	一、一四一
眞岡町	眞岡支廳管內	一七、一一四	一七、〇三六	—	八八
泊居町	泊居支廳管內	一〇、三二五	一〇、二二七	—	九八
本斗町	本斗支廳管內	一〇、九八〇	一〇、八〇五	一六	一五九
留多加町	大泊支廳管內	一〇、四五六	一〇、四一二	—	四四
南洋群島					
サイパン島	サイパン支廳管內	一九、九九四	一六、四二六	三、三七九	一八九
テニアン島	サイパン支廳管內	一〇、九一九	一〇、八五三	二八	三八
ポナペ島	ポナペ支廳管內	七、三三三	一、八八九	五、三〇一	三三
ヤップ島	ヤップ支廳管內	四、一八一	四六〇	三、六八七	三四
パラオ島	パラオ支廳管內	三、七七三	五八四	三、一七四	一五

內地		
東京市	東京府	五、六六二、九〇〇
大阪市	大阪府	二、七三三、七〇〇
名古屋市	愛知縣	一、〇一七、七〇〇
神戸市	兵庫縣	八五三、八〇〇
京都市	京都府	一、〇五二、五〇〇
橫濱市	神奈川縣	七〇三、九〇〇
廣島市	廣島縣	二九五、七〇〇
福岡市	福岡縣	二八二、九〇〇
長崎市	長崎縣	二一七、〇〇〇
函館市	北海道	二三三、七〇〇
吳市	廣島縣	二〇七、一〇〇
仙臺市	宮城縣	二一六、九〇〇
札幌市	北海道	一九三、二〇〇
八幡市	福岡縣	二〇〇、五〇〇
熊本市	熊本縣	一八六、〇〇〇

備考　內地の計數は推計人口による

行政

朝鮮は全管内を十三道に分ち道内に於ける行政事務は道知事之を管理する。道は第一次の地方行政組織であると共に他面道制に依つて法人格を與へられ内地の府縣に相當する地方自治團體である。

府、郡、島は第二次の地方行政組織であつて府尹、郡守又は島司は各其の長官である。此の中府は同時に内地の市に相當する地方自治團體である。

邑、面は第三次の地方行政組織であると共に他面邑面制により公法人たる性質を認められ内地の町村に相當する。

臺灣は五州三廳に分たれ州は比較的文化高き地方であり、廳は未開の地方であつて州には州知事、廳に廳長があり各第一次の地方行政組織である。

各州は同時に各地方團體であつて、廳は三廳を通じて一の廳地方費を設けられ之が三廳管内を區域とする地方團體である。

州にあつては郡及市が第二次の地方行政組織であつて郡は更に街及庄に分たれ廳に在つては街、庄及區が各第二次の地方行政組織である。

郡及市には郡守又は市尹を置き其の地位及職權は朝鮮に於ける府尹、郡守と略同樣である。倘街、庄及區に於ては街長、庄長及區長が管内の一般行政事務を掌理して居る。市、街及庄は一市、街、庄を區域とする地方團體である。

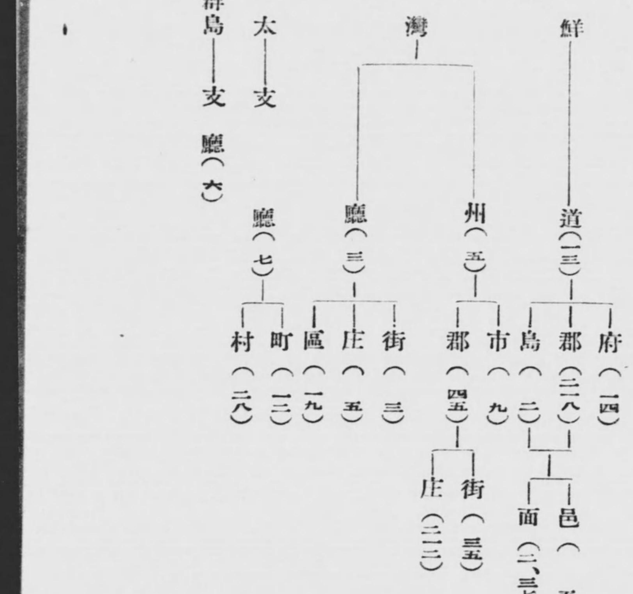
樺太の支廳に支廳長を置き其の管内に於て一般行政事務を處理する。

南洋廳管内須要の地に支廳を置き支廳長其の事務を擔任して居る。

町村は町村制に依つて法人格を有するも一級、二級及附則第二項の舊制度を適用するものの三種に分たれて居り、一級町村は大體人口五千人に達するものであつて略内地の町村に準じて居る。

一三 行政區劃

昭和九年末現在（括弧内の數字は行政區劃數を示す）



一四　職　員

朝鮮總督府　總督、政務總監以下局長七人、秘書官二人、事務官三十二人、理事官八人、山林事務官一人、視學官四人、編修官四人、技師三十三人、理事官六人、警視二人、視學官五人、通譯官六人、屬二百二人、編修書記五人、技手百十八人、通譯生二人を置く。

臺灣總督府　總督、總務長官以下、局長五人、事務官二十三人、理事官六人、警視二人、視學官五人、編修官二人、技師三十六人、統計官一人、纖譯官二人、屬百九十五人、警部七人、編修書記三人、技手百十七人、通譯一人を置く。

樺太廳　長官以下部長三人、事務官八人、視學官一人、社會教育官一人、支廳長七人、警視四人、技師五人、屬百十九人、視學九人、警部十四人、技手四十六人、通譯一人、警部補二十四人を置く。

南洋廳　長官以下書記官一人、事務官六人、警視一人、技師三人、屬五十一人、警部及警部補十九人技手二十人、通譯生一人を置く。

本府廳及所屬官署職員人員及俸給

昭和九年末現在（俸給國庫支給のものゝみを掲ぐ）

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
總數	人	八二、二七七	二六、二九八	三、三〇三	八三七
	俸給年額	五四、六四五、九六〇	二三、八三九、一一五	三、五九七、七〇五	一、二六九、一九七
勅任官	人	一	一	一	一
	俸給年額	八、〇三五	八、〇三五	八、〇三五	九、三四八
勅任官待遇	人	一	一	一	一
	俸給年額	六三、七〇〇	三四、三〇〇	三四、三〇〇	三一、三〇〇
奏任官	人	一、三三七	八三四	一四八	三一
	俸給年額	三、八三四、五七〇	二、一四九、一四〇	三七二、一四〇	一四八、〇九三
奏任官待遇	人	九〇	一	一	一
	俸給年額	一四二、一四三	一四二、一四三	一四二、一四三	一四二、一四三
判任官	人	二、三三九	一、〇八〇	三四四	三四四
	俸給年額	一四、三三二、一一四	一、五二九、七五一	六一八、八四八	六一八、八四八
判任官待遇	人	一九、六七四	四九五	一	一
	俸給年額	一三、〇八一、〇二三	四六七、六六七	一四五	一四五
囑託	人	七三八	一〇五	一	二一
	俸給年額	七四二、九五六	五〇、五七二	四三、三一一	四三、三一一
雇員	人	一九、五二五	一、五一一	一	四三九
	俸給年額	一〇、四三八、五九一	一、一六九、二四〇	一四五〇	四五〇、五九七
其他	人	二八、五六九	一	一	一
	俸給年額	一二、四五五、七六五	四〇七、三五二	一	一

一五　警察官署及職員

朝鮮　總督府に警務局を、道に警察部を、府郡島に警察署を置く。
臺灣　總督府に警務局を、州に警務部を、廳に警務課を、市に警察署を、郡に警察課を置く。
樺太　廳に警察部を、各地に警察署を置く。
南洋群島　廳に警務課を、各支廳に警務係を置く。

定員

昭和九年末現在

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
警察署	二五三	一〇	一三	一
駐在所派出所及出張所	二、七一九	一、五三〇	一五四	二一
警察官吏	五六	二四	三	一
警察部	三九九	二四四	一五	一〇
警部補	六五九	二三五	二一	八
巡査	一六、九二六	六、八五五	四九三	九一
警手（警手巡警を含む）	一、二四八・一	二、八八八	一（巡警）	四九
巡査一人に付人口	五三・二	六三五・二		六四七・五

備考　警手、巡警は巡査の補助機關で本地人中から採用され雇員の待遇を受ける
臺灣は警察署一〇の外警察機關として郡四五、支廳一〇在り、南洋群島には支廳警察係六、支廳出張所警務係一が在る

司法

裁判所

外地に於いては樺太は札幌控訴院の管下に屬し、内地と全然同一の區裁判所と地方裁判所とがあり、朝鮮には三院三審制の裁判所が、臺灣には二院三審制の裁判所がある。各裁判所は夫々特別の名稱を以て呼ばれる。今これを内地裁判所と對照表示すれば次の如くに成る。

内地	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
區裁判所	地方法院	地方法院單獨部	區裁判所	地方法院
地方裁判所	地方法院	地方法院合議部	地方裁判所	地方法院
控訴院	高等法院	高等法院覆審部	—	高等法院
大審院	高等法院	高等法院上告部	—	高等法院

一六 民事事件

昭和九年中

		朝鮮		臺灣		樺太		南洋群島	
民事爭訟調停事件	新受	六五六	六五三	一〇、九二三	一〇、九二七	—	—	二	二
	終局	六五三							
民事訴訟事件 第一審	新受	四三、八三三	四三、五八二	九、六五九	一一、七八九	六七三	七二七	一三三	一三五
	終局	四三、八三三							
民事訴訟事件 第二審	新受	二、四七五	二、五八一	二、一一三	一、八七九	六五	六一	二	二
	終局	二、四七五							

			朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
民事訴訟事件	第三審	新受	六九四	三三〇	—	—
		終局	六四二	三三八	—	—
	民事抗告		一三〇	一〇六	四	一
	和解		三三八	六二	一	一三五
	督促		一〇二、八三四	一二、三三六	八八二	五六
	假差押假處分		一五、一八七	二、三六八	二三三	七
	強制執行		一三、四一八	一、二九八	三七五	一
	不動産競賣		六、六六四	一、九一九	九五	—
	破産		三三	六八	四	—
	禁治産準禁治産及失踪宣告		六三	二三	二	—
	非訟事件手續法に依る非訟事件		七五、〇三三	一、六三六	一、二四九	—
	民事共助		一、七五六	二九六	三九	八一
	執達吏事務取扱		二七三、五二九	八〇、〇六二	八、四六七	二、三八九
	公證		六一、八五四	二〇、一七二	一、七七	二三
	確定日附		二六、六三三	六、〇六一	六八五	一七九

一七 登記

昭和九年中

			朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
計		件數	一、七六七、〇八六	四、〇七六	一〇、二三五	一三四
		箇數	五、五八二、五四四	九六五、六二六	一八、一七六	—
土地		件數	一、六七二、七七三	六、一三九	一三、二三三	—
		箇數	五、三八九、九三〇	九二九、〇一六	二、二一一	九九
建物		件數	八二、七五六	—	四、九五四	—
		箇數	一九三、一二三	三六、一九四	—	—
船舶		件數	四四〇	三一八	—	—
		箇數	四九一	四〇六	—	—
登記を目的とせざる法人件數			二、五四八	一、六九〇	四三一	六
商事會社件數			七、八三六	一、八五七	一、三六四	二三
其他の件數			七三三	二一一	九〇	七

一八 刑事事件

昭和九年中

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
檢事捜査事件	新受	一二三、四七四	二六、一五二	四、九八五	五七一
	終局	一二三、五二六	二六、一五〇	五、〇一三	五三四
豫審事件	新受	六一六	二一〇	四四	—
	終局	六八三	一七四	四五	—
刑事訴訟事件 第一審	新受	四七、六六五	三、三〇一	一、四四〇	三五二
	終局	四七、八三六	三、一七九	一、四五三	三四八
第二審	新受	一、六五五	三一七	四五	七
	終局	一、六四三	二七二	四〇	八
第三審	新受	一七七	五五	—	—
	終局	一六六	四五	—	—

教育

一九　教育機關

外地に於ける初等教育は言語、風俗等の關係より國語を常用する者（内地人）と國語を常用せざる者（本地人）との間に別個の體系を有する事は當然であつて夫々其の制度を異にして居る、即ち朝鮮に在つては小學校と普通學校と、樺太に在つては小學校と土人教育所と、南洋群島に在つては小學校と公學校とが夫々設けられて居る。小學校は内地と異る所はないが、本地人の教育機關は修業年限、學科目等に於いて小學校と多少の差異がある。中等教育は朝鮮に在つては中學校及高等女學校と高等普通學校及女子高等普通學校が設けられ別系統を爲すの外は共學制度であつて内地と選ぶ所はない。其の他師範教育に於いて初等教育に對應する爲分離主義を採るものあるの外、實業教育、專門教育、大學教育孰れも大體内地と同樣である。

昭和九年度末現在（教員中には兼務者を含ます）

大學

高等教育

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
學校	一	一		
教員	五〇九	八二		
學生及生徒	六二一	一二八		
入口千に付 生徒	〇・〇	〇・〇		

高等教育

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
高等學校 學校	一	一		
高等學校 教員	三五	三九		
高等學校 生徒	三〇九	五八一		
高等學校 入口千に付生徒	〇・〇	〇・一		
大學豫科 學校	一	一		
大學豫科 教員	一五	四		
大學豫科 生徒	四三六	一〇五		
大學豫科 入口千に付生徒	三、七二一	九四四		
專門學校 學校	〇・二	〇・二		
專門學校 教員				
專門學校 生徒				
專門學校 入口千に付生徒				

中等教育

師範學校 學校	三	四		
師範學校 教員	一〇三	一〇一		
師範學校 生徒	二、〇五三	一、三九〇		
師範學校 入口千に付生徒	〇・一	〇・三		
中學校 學校	一二	一〇	三	
中學校 教員	二八四	二一四	八六	
中學校 生徒	六、五五〇	五、四三一	一、九〇一	
中學校 入口千に付生徒	〇・三	一・〇	六・一	

高等女學校 學校	二七	一三	四	
高等女學校 教員	四〇一	二四一	六七	
高等女學校 生徒	九、九二〇	五、六六〇	一、四三八	
高等女學校 入口千に付生徒	〇・五	一・一	四・八	
高等普通學校 學校	二六			
高等普通學校 教員	五七一			
高等普通學校 生徒	一四、〇二八			
高等普通學校 入口千に付生徒	〇・七			
女子高等普通學校 學校	一七			
女子高等普通學校 教員	二六四			
女子高等普通學校 生徒	五、五〇三			
女子高等普通學校 入口千に付生徒	〇・三			
實業學校 學校	五八	一八	一	
實業學校 教員	八一二	三一	三	
實業學校 生徒	一六、二二九	三、一三四	二六	
實業學校 入口千に付生徒	〇・八	〇・六	〇・三	
實業補習學校 學校	九二	一八七	一	
實業補習學校 教員	二四四	三五	七	
實業補習學校 生徒	四、六六一	一〇六	八	九（木工徒弟養成所）
實業補習學校 入口千に付生徒	〇・二	〇・四	四三七	
			一・四	〇・五

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
初等教育	學校	四八五	一三四	二二六	一八
小學校	教員	二、二八五	九六八	一、一八七	七五
	兒童	八一、五二三	四〇、〇三三	四九、二八二	三、九三六
	教員一に付兒童	三五・六八	四一・三	四一・五二	五二・五
	人口千に付兒童	三・九	七・七	一五七・四	四三・四
普通學校	學校（普通學校）	二、二二一	七七〇	一	二五
	教員	一〇、七九九	五、九六六		八三
	兒童	六四〇、一四〇	三三二、九六六	三〇	二、九八七
	教員一に付兒童	五八・六八	五五・八	三〇・〇	三六・〇
	人口千に付兒童	三〇・三	六四・一	〇・一	三三・〇

備考　本表の他準初等教育機關として朝鮮に書堂六、八四三、同教員七、四〇八、兒童一五三、六八四、臺灣に書房二一〇、同教員一四七、兒童三、五三四あり

各種學校	學校	四三〇	一九	五	一五
	教員	一、六六七	一五〇	五〇	三四
	生徒	六四、四一七	三、六八〇	三一二	一、五八四
	人口千に付生徒	三・〇	七・一	一・〇	一七・五

備考　本表の他臺灣に盲啞學校二、同教員一九、生徒二八八あり

宗教

宗教

外地の宗教には領有後の傳道普及による佛教、基督教、神道と、往時より行はれて來た在來宗教との二種類がある。在來宗教たる朝鮮佛教は傳來九百年の歷史を有し、往時の朝鮮文化の上には燦たる光彩をそへてゐたものである。然るに李朝久しきに亘つて嚴重な壓迫禁制に遭つたゝめ、次第に衰微滅亡の路を辿り、最近には全く精神のない形骸を留めて居るに過ぎなかつた。時宛も日韓併合成り、傳法布教の自由が公認されるに及んで次第に蘇生復舊の色を現はして來た。臺灣には古來道教、儒教、齋教等の宗教があるが、現在に於いては何れも一種の民間信仰の程度を超えない。たゞ同一の神佛又は祖先を信奉する團體のみは今に至るも其の勢力を持續し、相集る者數百名から稀には千名を超える神明會の如き團體もある。南洋群島には土人の間に一種のトーテム信仰が行はれる。

神社は內地の神社と大體制度を同じくするものであるが、なほ朝鮮の神祠、臺灣の社は神社として

の形態整はず神社と稱せられないのである。

二〇 神社及神職

昭和九年末現在

	朝鮮	臺灣	樺太
神社	三三	二五	一三
神祠	五四	三〇	三
神祠又は社職	二四三	一〇一	一

二一　布教所、布教者及信徒　昭和九年末現在

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
神道	布教所	二七五	七四	四四	二
	布教者	五六八	一三三	四六	三
	信徒	一〇一、二九五	二五、九四九	一七、五一九	一二六
	布教者一に付信徒	一七八・三	一九六・六	三八〇・七	四二・〇
佛教	布教所	四二二	一一三	一二六	五
	寺院其他	一九七	五三	七二	—
	布教者	一四〇	二三三	一三三	七
	信徒	一、三三八	一六九、四二八	五九、九〇六	二三、二六二
	布教者一に付信徒	六一〇	七二七・二	四八七・〇	三、三三三・一
基督教	布教所	七、三四九	二五七	一三	一四二
	布教者	四、四〇九	二六九	一三	一六七
	信徒	二、六五三	五〇、九五三	一、一七一	四〇、八七四
	布教者一に付信徒	四四一、四一九	一八九・四	九七・六	二四四・八

衛生

二二 醫療機關

外地邊鄙の地に於いては醫師の自ら開業するもの少なく、從つて各地公醫の制度を設けてこれを補つて居る。獨り南洋群島のみは公醫の制度を設けず驗立醫院の每年數回の巡回診療によつて醫療の普及を計つて居る。醫師の取締に關しては各地何れも內地法に準じ、內務大臣の免許證を有する事を原則として居るが、資格ある醫師を充實する事は極めて困難な事情多く、これが不足は免許證のない限地開業醫や醫生の許可によつて補ふの餘儀ない狀態にある。

昭和九年末現在（樺太に於ける病院は病床十個以上のものを掲ぐ。）

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
病院	一三六	二六	二四	一〇
醫師	二、三五三	一、三九〇	一三〇	四一
限地開業醫及醫生	四、四五一	四一六	八二	六
齒科醫師	六九六	二八九	五八	一四
藥劑師	三四九	一五三	四二	一〇
產婆	一、七六六	一、六三一	二四九	四八
看護婦	一、六七二	六八	一〇七	三四
藥種商	一、〇六五	二、七二三	七六	八
製藥者	五〇	三三	一四	—
	三、九二八（醫師、限地開業醫、醫生一につき入口一面積八方粁）	二、八七六（醫師、限地開業醫、醫生一につき面積八方粁）	一、五五〇	一、二九五
	三二・四五	一九・九一	一七八・六六	四五・七二

二三 傳染病

昭和九年中

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
總數	患者	二三、六八四	二、九四五	一、〇〇五	八四	二三八、四二九
	死亡者	二、四五二	六六五	一三一	一三	二九、一二七
	死亡率（人口千に付患者）	一七・九	三一・六	一三・〇	一四・五	一二・五
	死亡率（患者）	〇・五	〇・六	三・〇	〇・九	一二・〇
赤痢	患者	二、六九五	二一八	五五	五（疫痢を含む）	四三、九四二
	死亡者	五二七	三六	九	五	一四、七七一
	死亡率	一九・六	一六・五	一六・四	一〇〇・〇	三四・四
腸チブス	患者	五、六二四	一、一六二	三六八	三二	四二、六九五
	死亡者	八二三	三〇一	五七	二	七、七三二
	死亡率	一四・六	二五・九	一五・五	六・三	一八・一
パラチブス	患者	四七〇	三八	二三	一五	四、四八一
	死亡者	三三	八	三	二	三三七
	死亡率	六・八	二一・一	一三・六	一三・三	七・五
流行性腦脊髓膜炎	患者	四四九	二七二	一	一	一、一九一
	死亡者	二六四	一六七	一	一	六五〇
	死亡率	五二・九	六一・四	一〇〇・〇	一	五四・六

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
痘瘡	患者	四五〇	五	一	一	三二五
	死亡者	一三五	一	一	一	三八
	死亡率	三〇・〇	二〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一一・八
發疹チブス	患者	一、〇七二	一一	一	一	二六
	死亡者	一三三	一	一	一	三
	死亡率	一二・四	九・一	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一一・五
猩紅熱	患者	一、一八三	四一八	一二	一	一一、八九一
	死亡者	九三	一三	一	一	五〇九
	死亡率	七・八	三・九	八・三	一〇〇・〇	四・五
チフテリヤ	患者	一、八九一	一四一	四三八	六	三〇、一一〇
	死亡者	四四七	八三三	六一	一	五、〇八九
	死亡率	二六・四	一六・九	一三・九	一六・七	一六・九
其他	患者	—	—	—	二六	—
	死亡者	—	—	—	二	—
	死亡率	—	—	—	七・七	—

財政

二四　特別會計歲入歲出

（單位　圓）

	歲入			歲出		
	總數	經常部	臨時部	總數	經常部	臨時部
朝鮮						
大正元年	六三、一二六、八九四	二八、七六四、七四〇	三三、三六二、一五四	五一、七八一、二三五	二八、〇〇〇、二七八	二三、七八〇、九四七
同五年	六八、二〇三、一〇七	四四、七六四、五五九	二三、四三七、五四八	五七、五六二、七一〇	三六、一八八、九一九	二一、三七四、〇九一
同十年	一七五、一三四、八二五	九三、四一七、一八四	八一、七一七、六四一	一四八、四二四、〇〇三	九一、三六六、〇四九	五七、〇四七、九五四
昭和元年	二一一、七〇八、八九三	一五九、六四六、五一九	五三、〇六二、三七四	一八九、四七〇、一〇一	一三八、〇〇〇、三四八	五一、四九七、七五三
同五年	二一八、二一〇、三五二	一七〇、七〇一、四二一	四七、五〇八、九四一	二〇八、七二四、四四八	一五六、六一六、七四三	五二、一〇七、七〇五
同九年	二九〇、二六七、四一四	二四〇、四六三、四一七	四九、八〇三、九八七	二九〇、二六七、四一四	二一〇、九九一、〇七〇	七九、二七六、三四四
臺灣						
大正元年	六〇、二九五、八五八	四二、五三〇、九二〇	一七、七六四、九三八	四七、一八八、五七六	二五、六八七、七二一	二一、五〇〇、八〇五
同五年	五五、七六五、九八七	四六、二三〇、九八七	九、五四四、七〇一	四二、六八六、五六二	三二、八九〇、三三一	九、七九六、二三〇
同十年	一二三、〇三五、五六五	七〇、四三八、一八〇	四一、五九七、三八五	九四、五一九、六三五	六四、二四一、九〇五	三〇、二七七、七三〇
昭和元年	一三一、七七八、〇〇五	九六、五八八、三九八	三五、一八九、六四七	九一、九四〇、五九八	六九、六五七、八九一	二三、二八二、七〇六
同五年	一二九、七五七、七六〇	九八、五一六、五四四	三一、二四一、二一六	一〇九、九七〇、八八二	七八、三六三、三三八	三一、六〇七、五四三
同九年	一四一、六一七、五九五	一一〇、六一四、五二〇	三一、〇〇三、〇七五	一一三、一七八、六八三	八七、二六八、六六八	二四、九〇八、〇一五
樺太						
大正元年	二、二九六、七五九	一、四五六、九八七	八三七、七七二	二、〇七七、六七七	九八一、六〇四	一、〇九六、〇七三

歲入	總數	經常部	臨時部	總數	經常部	臨時部
樺太						
大正五年	二、六八一、四〇五	一、九八七、七八三	七〇二、六二二	一、八五一、八四三	一、一〇一、九〇四	七四九、九三九
同十年	一五、七七三、二〇五	六、七〇七、〇三三	九、〇六六、一八二	一二、〇六五、五八一	四、九一八、二九一	七、一四七、二九〇
昭和元年	三三、三三一、〇一七	九、四八八、〇五三	七、七三四、九七四	一七、七三四、〇九九	八、九三七、二三八	八、七九六、八六一
同五年	二六、五四四、五三一	一四、〇二八、九一九	五、五一五、六一三	二四、六二九、二九三	一五、六二六、七七六	九、〇〇二、五一七
同九年	四〇、〇三九、五九七	二三、二三五、八八七	六、七八三、七一〇	二四、七〇〇、一四六	一六、一九六、〇六一	八、五〇四、〇八五
南洋群島						
大正十一年	六、五四〇、五〇八	一、三〇〇、五四八	五、二三九、九六〇	五、三九二、四七五	一、九八〇、〇四二	三、四一三、四三三
昭和元年	七、〇〇八、三二八	二、三九九、三六九	四、六〇八、九五八	三、九四八、五七四	二、三一〇、一一〇	一、六三八、四六四
同五年	七、三六七、四一二	三、四〇三、三二一	三、九六五、〇九一	四、六九八、八四五	二、三六四、三八一	二、三三四、四六三
同九年	八、〇九八、二九五	五、一一八、四六六	二、九七九、八二八	五、三九二、七六一	二、九二四、八二七	二、四七八、九三四
關東州						
大正元年	六、一六二、七七〇	一、七八二、七二三	四、三八〇、〇四七	五、三九九、三五三	二、七〇一、二三二	三、四九七、一二一
同五年	二、二〇〇、四〇〇	二、七八二、六一〇	三、四九七、一二一	四、二〇八、〇〇三	一、〇五九、六二五	三、一四八、三七八
昭和元年	一六、八〇三、八四〇	八、八四九、三三二	七、九五四、五〇八	一三、九二七、三五	四、〇九〇、七六四	九、七三二、〇三五
同五年	一九、〇三三、〇四一	一一、五一六、七一四	七、五三〇、二七	一四、〇九九、一三四	二、七〇、八一一	一二、九六四、〇〇〇
同九年	一六、一六一、一四一	一五、〇一三、六七八	一、一四七、四六三	一五、七三六、七一五	四、一三四、一六二	一一、六〇二、五七三
總計	二九、一四〇、四五〇	一〇、一七二、八五〇	一八、九九七、六〇	一六、〇〇九、二〇一	七、二四一、九三一	八、七六七、二七〇

二五 國庫補充金

（決算額 單位 圓）

歲入	總數	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州
明治二十九年	六、九四〇、二七五	—	六、九四〇、二七五	—	—	—
同三十年	五、九五九、〇四八	—	五、九五九、〇四八	—	—	—
同三十一年	三、九八四、五四〇	—	三、九八四、五四〇	—	—	—
同三十二年	三、〇〇〇、〇〇〇	—	三、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同三十三年	二、五八九、六一一	—	二、五八九、六一一	—	—	—
同三十四年	二、三八六、六八九	—	二、三八六、六八九	—	—	—
同三十五年	二、四五九、七六三	—	二、四五九、七六三	—	—	—
同三十六年	二、四五九、七六三	—	二、四五九、七六三	—	—	—
同三十七年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同三十八年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同三十九年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同四十年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同四十一年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同四十二年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同四十三年	二、八五〇、〇〇〇	—	二、八五〇、〇〇〇	—	—	—
同四十四年	二、三五〇、〇〇〇	—	二、三五〇、〇〇〇	—	—	—
大正元年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同二年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—
同三年	二、〇〇〇、〇〇〇	—	二、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州
大正四年	八、〇〇〇、〇〇〇				一、九三七、〇〇〇
同五年	七、〇〇〇、〇〇〇				二、〇〇七、〇〇〇
同六年	五、〇〇〇、〇〇〇				二、一〇三、二〇二
同七年	三、〇〇〇、〇〇〇				二、〇〇〇、〇〇〇
同八年	—				三、二四〇、〇五〇
同九年	一〇、〇〇〇、〇〇〇				四、〇〇〇、〇〇〇
同十年	一五、〇〇〇、〇〇〇				四、三〇〇、〇〇〇
同十一年	一五、六〇〇、〇〇〇			五、二三九、九六〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同十二年	一五、〇一七、一二八			三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同十三年	一五、〇二一、四〇三			二、九〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同十四年	一六、五六八、八九七			一、八〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
昭和元年	一九、七六一、二五九			一、八〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
同二年	一五、四三五、一一一			一、八〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同三年	一五、四五八、一四二			一、八〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同四年	一五、四一三、三〇三			一、八〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同五年	一五、四七三、九一四			一、五〇〇、〇〇〇	四、五五〇、〇〇〇
同六年	一五、四七三、九一四			一、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同七年	一二、九一三、九一四			二七三、四五九	三、七〇〇、〇〇〇
同八年	一二、八五三、七七三				四、〇〇〇、〇〇〇
同九年	一三、八三五、一五〇				六、〇〇〇、〇〇〇
累計	二九二、四〇一、〇一八	三〇、四八八、六八九	二六、九四五、七〇六	二一、一三、四二九	四〇、九四八、六五二
割合（歳入に對する割合％）（昭和九年）（人口一に付金額）	四・四 〇・六一				一〇・二 二・九七

二六　國稅收入額

（單位　圓）　昭和九年度決算額

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
金額	五六、一二九、二四六	一九、三四七、八五六	一、八二一、一六〇	二、七九九、七三五	八四三、一八三、四九六
歳入に對する割合％	一九・三	一三・七	四・五	三四・五七	三七・五
人口一人當負擔額	二・六六	三・七二	五・八二	一・一八	一二・三六

備考　人口一人當負擔額中南洋群島は出港稅及鑛區稅を除きて算出す

稅種別金額

（單位　千圓）　（取引所稅は取引所營業稅と取引稅とを合したるものなり）

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	關東州	內地
總計	五六、一二九	一九、三四七	一、八二一	二、七九九	八四三、一八四	
內國稅總計	四三、二六七	一四、七三八	一、八〇九	二、七九五	六九六、一〇一	
地租	一四、七三八	五、八四三	一〇	—	五七、六四六	
所得稅	五、一一四	四、〇二六	二四〇	—	一九六、三八二	
鑛業稅	一、三九一	（鑛區稅） 一九五	一五二	（鑛區稅） —	四、二四七	
營業收益稅	一、五六三		三九二	—	四八、六四八	
資本利子稅	四四八	—	—	—	一四、八七三	
漁業稅	—	—	—	—	—	
人頭稅	一一四	—	—	—	—	

朝鮮臺灣樺太南洋群島內地

稅種別金額（單位 千圓）續

稅種	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
取引所稅	四九七	—	—	—	一四、五四八
銀行券發行稅	五五	二四七	—	—	—
酒稅	一六、五八四（酒精稅）	三、三六八	八八九	—	二八、四三五
砂糖消費稅	二、六四三	三、〇一八	—	—	七四、九六七
纖物消費稅	—	二	—	—	三五、六九六
煙草稅	—	—	—	二、六九二	—
出港稅	九二	—	—	—	三〇、六七九
其他の稅	二四二	—	二	三五	一四四、四三二
關稅	一三、七二八	二、五六一	一三	—	二、六五〇
噸稅	三四	五九	一	—	—

二七 國債及借入金（單位 圓） 昭和九年度末現在

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
總額	四九八、八三〇、五二四	二九、五二五、四五〇	三八、二二二、三六九	七三、八八〇
國債	四八九、四八〇、五二四	一二九、五二五、四五〇	三七、六一二、三六九	七三、八八〇
借入金	九、三五〇、〇〇〇	—	六〇〇、〇〇〇	—
人口一に付國債額	二三・一六	二四・九三	一三二・〇三	〇・八一

二八 專賣收入

（單位 圓）　昭和九年度決算額

	朝鮮		臺灣	
	金額	比例	金額	比例
總數	四七、六三七、九九一	100.00	四五、五〇二、一六九	100.00
煙草	三九、四七九、三一九	八三・八七	一五、二四〇、一五三	三三・九一
鹽	六、〇〇八、三五九	一二・六一	二、七〇三、九七〇	五・八四
阿片	五八三、二五二	一・二三	二、五五八、三七一	五・五三
人參	一、五六七、〇六一	三・二九	—	—
樟腦	—	—	八、六〇一、二七五	一八・五八
酒類	—	—	一七、一九八、四〇一	三七・一四

備考　朝鮮の鹽は專賣ではないが鹽の輸移入管理等總て鹽に關する事務は專賣局の所管に屬し更に天日鹽の製造は專賣局自らが經營する處のものである。尙樺太に於いて煙草の專賣が行はれるがこれは函館專賣支局の所管に屬し其の收入は拓務省を通じて繰入れられる昭和九年度繰入金は一、二四五、〇四〇圓である。

產業

我が外地は北寒帶に逼り南熱帶に位して夫々風土の差甚だし、從つて其產業にも自ら之に適應する特殊相を呈して各獨自の分野を持しつつ而も互に相倚り相俟つて我國民經濟の自立に重大な寄與を爲して居る。唯新領土の產業は總じて原始產業を基幹とし本土に對する原料資源の供給を主たる目標として其進展を遂げて居ることは帝國全領域を通ずる所謂ブロックの構成上當然の要求と謂はねばならぬ。各外地の代表的主產物たる朝鮮の米、臺灣及南洋群島の砂糖、樺太の木材及パルプの如き時に需給の實勢に制せられて本土既存產業との間に機微なる交涉を生ずるを避け難しとは雖も孰れも本邦自給經濟の確立に對し著大なる貢獻を爲しつつあることは否み得ない。

二九　耕地面積及農業者

（單位面積　陌）　昭和九年末現在

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
耕地面積	總數	四、八八七、三七九	八二五、七〇九	三一、五九七	一七、七五〇	五、九八七、七四七
	田	一、六七八、七四四	四四八、九八一	—	一、三八八	三、一九一、八四二
	畑	三、二〇八、六三五	三七六、七二九	三一、五九七	一六、三六二	二、七九五、九〇六
農家戶數	總數	三、〇一三、一〇四	四一一、九八一	一一、五九三	一一、六二五	五、六一七、四八六
	自作	五四二、六三七	一三〇、一一七	八、九八六	—	一、七四〇、二一九
	自作兼	七二一、六六一	一二四、九五七	八三四	—	二、三六八、九四八
	小作	△ 一〇三、二二五				
	小作	× 一、五六四、二九四	一五六、九〇七	一、七七三	—	一、五〇八、三一九
農業者人口		—	二、七〇〇、九九〇	五八、五一四	三一、七一六	—
總面積に對する耕地(%)		二二・一	二三・〇	〇・九	八・三	一五・七
耕地面積に對する田(%)		三四・三	五四・四	—	七・八	五三・三
耕地面積に對する畑(%)		六五・七	四五・六	一〇〇・〇	九二・二	四六・七
人口千に付耕地面積		一八二・九	一五八・九	一〇〇・九	一九五・八	八四・六
農家一に付耕地		一・六	二・〇	二・七	一・五	一・一
總戶數千に付農家戶數		七五一・三	四五五・〇	一九〇・〇	五六五・六	—
人口千に付農業者人口		—	五一九・九	一八六・九	三四九・九	—

備考　△印は火田民を×印を被傭者にして耕地を所有並に占有せざるも獨立の生計を營み農業に從事するものを示す。

三〇 農産物

昭和九年中

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
總數	價額	七四八、三三二、九一二円	二五七、〇三四、二五一円	四、〇五八、九三〇円	三、一八七、一〇〇、一六三円	
米	數量	三〇、一五六、三九三頓	一八、三九五、五〇五頓	—	九三、五一四、八五六頓	
	價額	四一五、五四六、三八七円	一六五、一七五、三八九円		二五、一五三頓	
麥類	數量	二〇、〇五三、九六六頓	二一、〇三八頓	—	四、三五六円	
	價額	八八、六五三、五六八円	一三二、〇九六円		一、三八四、六二一、九二八円	
其他の穀雜類	數量	一一、一六二、八七八頓	六五、三九四頓	—	四〇、四二一、一三四頓	
	價額	六二、五八八、二三八円	三九八、七五九円		二四四、二〇三、二一二円	
豆類	數量	八、八九二、九七三頓	一、一七二、一〇五頓	—	八、六九七、一四二頓	
	價額	五九、二五五、八二三円	三、九三八、〇三九円		三二、一七一、八二四円	
蔬菜	數量	二、〇〇二、八三八、六二八斤	三三、三六二、九四五円	八一、一四〇斤	六四、〇一九、七三二円	
	價額	六七、八二三、一五五円		一二、六〇六、七一〇円		
果實	數量	九七、二八六、八五〇斤				
	價額	九、〇五五、四四二円				
特用作物	數量					
	價額	四三、四四一、三一〇円	四一、四三〇、三一三円	三五、三三一、〇七三斤	二、六八九、七四五、九三〇斤	三、一八七、一〇〇、一六三円
飼料作物	數量					
	價額			三九二、六五二円	一、六八五、七六七円	
其他				一六、一二五円		

備考　本表中には緣肥用作物、果樹苗及桑苗に係る計數は含まず尙朝鮮には藥稈類を含む。

主要農產物

朝鮮

米	三〇、一五六、三九三頓	大豆	六、八七七、一八五頓	
	四一五、五四六、三八七円		四四、五五七、五六五円	
大麥	一四、四三〇、四〇一頓	棉（陸地棉及在來棉）	九三、〇二一、〇四四斤	
	五五、二九〇、四二三円		二五、七一八、一一三円	
小麥	三、三一五、一九二頓	小豆	一、五七五、四七九頓	
	一八、七六三、一一〇円		二、七二八、九八五円	
米	一六、三九五、五〇五頓	甘蔗	五、三三〇、二八〇、九二六斤	
	一六五、一七五、三八九円		三〇、三四三、二三六円	
苧	一八一、四五〇、九八四瓩	茶（粗製茶）	一一、〇三五、二一七斤	
	六、一九四、二六〇円		七、五四六、八九九円	
蕉	八五、四六六、九四七瓩	椪柑	一九、〇六五、二七四斤	
	二、七八七、二四一円		一、二三三、六八一円	
梨	二〇、二五六、二〇〇斤	甘藷	一、五六五、五九七、〇九八斤	
	一、二三三、六八一円		二一、九〇、三五七円	
栗	六、八〇三、二一二頓	落花生	一、〇二一、三四一頓	
	四一、六二八、七〇八円		二、八三二、六五六円	
馬鈴薯	四二六、三四九、二三〇斤	黃麻	九、四九〇、一六八斤	
	一三、〇七九、九三二円		一、一四五、六〇八円	
蘿蔔	六〇二、六四六、四〇一斤			
	一一、八九八、一七八円			

樺太

燕麦	作付反別	三二八、四九五頃	九一一、七一三円
	収穫高	三四三、三七五、五四九貫	七三九、九八九円
裸麦	作付反別	二九、一一〇頃	一九七、六七九円
	収穫高	一七、九四〇頃	一三五、三四四円
蕎麦	作付反別	二三、〇〇〇頃	七五、八七三円
	収穫高	一八、三四八貫	三一、二三七円
甘藍	作付反別	九、〇五七、一七五貫	一九三、六三一円

南洋群島

甘蕉	作付反別	三八九、四一四、五二九貫	一、一六三、八八八円
タピオカ	作付反別	八、七六九、三二七貫	一七三、一五二円
甘藷	作付反別	一、六〇〇、四五一貫	七七、九一六円
麺麭果	作付反別	一八、八三五、七二九貫	七〇四、一七六円
芎蕉	作付反別	二、〇四九、五九〇貫	一一二、六〇〇円
牧草	作付反別	二六、五六七、一六三貫	三一三、八八四円
豌豆	作付反別	三三、九四一頃	三〇四、七五四円
蘿蔔	作付反別	一二、五七九、六一三貫	二三三、三七八円
薯蕷	作付反別	二、二七、八一八貫	一六〇、三一〇円
珈琲	作付反別	三〇三、七七〇貫	二〇、六六三円

三一 養蠶 昭和九年

		朝鮮	臺灣	內地
桑園面積（町）		七七、一五四・四〇	六三九・〇三	六一七、八五一・三三
飼育戸數	總數	一、三九八、〇三六	三、〇七九	三、六七七、三九九
	春蠶	八三九、八一四	一、一三七	一、八六六、五五二
	夏秋蠶	五五八、二二三	一、九四二	一、八一〇、七八七
掃立枚數	總數	一、〇八〇、〇四七	八、七八五	一六〇、九一四、八一六瓦
	春蠶	六八〇、〇〇〇	四、四〇三	七七、四六三、〇七〇
	夏秋蠶	四〇〇、〇四七	四、三八三	八三、四五一、七四六
產繭高	總數	三一、九九、〇八八斤	三九七、七四二、五五五斤	三一六、四六四、二四四
	春蠶	一五、八二、三〇四	二三八	一八一、四六四、二四四
	夏秋蠶	七、一〇六、七八四	一六九	一四五、二七八、三一一
價額（円）	總數	一〇、〇二七、八三一	七六、四一六	二〇三、八四九、一八八
	春蠶	七、一二〇、一三〇	五二、二六一	一一七、三四〇、三七八
	夏秋蠶	二、九〇七、七二一	二四、一五五	八六、五〇八、八〇〇

三二　家畜及家禽　昭和九年末現在

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
牛	一、八七一、一八五	三九四、八六五	五、三二三	一、六二四、七九八	
馬	五三、八〇四	四一	一三、四一五	三八	一、四六四、二八九
騾	二、七三五	—	—	—	—
驢	一、四三六	—	—	—	—
山羊	三二、一七七	八三、六九九	七六	三、三二五	二五三、七六八
綿羊	五、四七三	二四二	二九三	—	三五、九五三
豚	一、五八三、五一三	一、八三六、一六九	八、六〇六	一八、七五三	九八〇、七三八
鹿	—	七七一	—	—	—
鴛鴦	七、一七八、七二五	六、一九八、六九三	八六、五〇三	九〇、三四六	五三、三一五、七二〇
鷲	三六、二六九	一、六一六、八〇七	七六七	四、九一九	五六〇、〇四四
鷺	—	三三六、四五三	四一八	六	—
七面鳥	一、〇五六	一五、一四四	二八七	八〇九	—

三三　林野面積　昭和九年末現在（單位　陌）

		朝鮮	臺灣	樺太	内地（昭和八年）
總數		一六、二一〇、九〇二	二、四四四、二八七	二、九〇四、二九四	二三、六四五、七二一
森林原野		—	一、八九一、九〇九	—	二〇、五七五、九一三
國有林野		五、八一六、二四九	五五二、四七八	—	三、〇六九、八一八
森林原野		—	二、一八五、〇二五	—	九、〇七一、四九五
公有林野		八六八、五〇〇	一、六八〇、二〇三	—	八、六六一、一五七
森林原野		—	五〇二、八二三	—	四一〇、三五八
私有林野		九、五三六、一五三	一三、〇六二	—	四、四三一、六〇六
森林原野		—	一〇、九三二	—	三、四四一、七二一
總面積に對する林野面積（%）		七三・四	二、一三〇	—	九八九、八八五
造林面積		九一、六四〇	二四八、三〇〇	—	一〇、一四二、六三〇
			二〇〇、七七四	—	八、四七三、〇三五
			四七、五二六	—	一、六六九、五九五
			六七・九七	七四・九	六一・八
			二一、一六四	三、八七一	三五四、三三三

備考　南洋群島の昭和九年末に於ける椰子林面積は三三、五七三陌である。
内地は三年毎の調査に付昭和八年の計數を掲ぐ。

三四 林産物 昭和九年中

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
總價額		一〇六、〇三一千円	一二、六六六、七九四円	二三、一一三、二九四円	三、一八一、三六八円	二九一、四〇八千円
用材	數量	二、二九八、八二二立方米	二一九、七七六立方米	四、七一七、四八四立方米	一、七一四立方米	一七、九一三千立方
	價額	一七、八五四千円	四、二三六、七二四円	二一、五二九、三二九円	八、八九五円	一一二、七四九千円
薪材	數量	五、〇九四、一七三瓲	四五四、七九二瓲	三四一、九一二瓲	三九、八九八立方米	一九、九二九千棚
	價額	二四、五〇八千円	二、二二九、二三三円	三二六、六一九円	一一、三一二円	五一、七八九千円
木炭	數量	九六、四八九瓲	六四、〇一七瓲	七、五一九瓲	一、〇四九、三七七瓲	二、一九八、三〇〇瓲
	價額	二、八六三千円	一、五四九、七一六円	二五三、一四八円	六二、九〇三円	八九、〇二〇千円
竹材	數量	一九八千束	四八、七九七、〇九一本	—	一、〇五〇束	〔五、四一九千束
	價額	三二〇千円	一、八四九、三五五円	—	四七三円	〔六、〇一二本
枝葉	數量	七、五一七、〇三〇瓲	—	—	—	二、五八一千円
	價額	二六、六七九千円	—	—	—	—
柴草	數量	七、七〇五、八九八瓲	—	—	—	四、九九一、〇七二瓲
	價額	一五、八八九千円	—	—	—	一五、六一七千円
コプラ	數量	—	—	—	一二、一七五瓲	—
	價額	—	—	—	五七〇、七二六円	—
椰子實	數量	—	—	—	一二三、五八二、五〇三箇	—
	價額	—	—	—	二、四七一、六五〇円	—
其他	數量	—	—	—	—	—
	價額	一七、九一八千円	二、八〇一、七六六円	四、一九八円	五五、三九九円	一九、六五二千円

三五 水産業者 昭和九年末現在

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
水産業者戸數	一五五、四六一	—	五、八九一	一、一七八	—
漁業	一一四、五九〇	—	五、八九一	—	—
養殖業	三〇、二一一	—	—	—	—
水産物製造業	一〇、六六〇	—	—	—	—
水産業者人口	三三九、〇八三	一一八、三七一	二五、八〇七	二、二三六	一、五二一、九一六
漁業	二三四、七七一	八六、九八九	二五、八〇七	—	一、一〇三、三四六
養殖業	七六、六六三	二六、九一九	—	—	一五一、〇〇七
水産物製造業	二七、六四九	四、四六三	—	—	二六七、五六三
總戸數千に付水産業者戸數	三八・七六	—	九六・五六	五七・三二	—
總人口千に付水産業者人口	一六・〇五	二二・七九	八二・四二	二四・六七	二一・五〇

三六 漁獲物

昭和九年中

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
總數	價額	五七、七七七、九〇一円	二、四五二、二四一円	六、八三二、七五五円	二、六四四、八〇五円	二五一、二六八、二五七円
魚類	數量	一、二一六、七二一、六二八瓩	四五二、二〇一、一九二瓩	一、一四二、八七八瓩	三、〇〇五、七九二、九六二瓩	一〇、六八九、二七五瓩
	價額	四九、一四三、五四九円	五、八一二、八三四円		九、八四五、九八二瓩	二、四九、〇〇〇、一一三円
貝類	數量	三三、七五八、一五五瓩	三、三〇三、七九七瓩		二、四六九、一八一円	五一八、一八三瓩
	價額	二、〇三五、四八四円	三三、一四八円		一三五、二六七円	五二、五〇七円
其他水産動物類	數量	五六、一八二、一八五瓩	—		—	一八〇、〇三三、〇八六瓩
	價額	三、九五一、〇三〇円	二、七六三、六六〇瓦		—	一〇、〇四四、〇三一円
	數量	八六、八四四、一四二瓩	五七一、九四〇円		四〇、三五五円	六五五、八三一円
	價額	二、六四八、八四一円	三七、七二三、六四五瓩		—	二七、九〇一、三三三円
			四〇三、七六九円		—	六五七、〇四二、二四四瓩
						九、二八二、七七二円

主要漁獲物

朝鮮

鯖	數量	八八、二六四、八〇六瓩	一八、六六四、五八五瓩
	價額	五、七一六、八九一円	一、二六五、九六四円
片口鰯	數量	四七、八七七、二四一瓩	二三、六一〇、三八〇瓩
	價額	四、一八三、一二二円	一、五四〇、九一六円
鰤	數量	五八〇、三一一、九六五瓩	一八、六六四、五八五瓩
	價額	九、一七〇、四九六円	一、二六五、九六四円
鰹	數量	四九、五二九、一五八瓩	二三、六一〇、三八〇瓩
	價額	二、五四八、六四八円	一、五四〇、九一六円

臺灣

旗魚	數量	四、四六二、六〇〇瓩	三、三一三、四六五瓩
	價額	一、三九一、八七九円	七二六、六五九円
鮪	數量	一〇、六二六、九七四瓩	一、二四一、三四七瓩
	價額	八六二、一八一円	五六一、九〇一円
鰤	數量	一、二三四、四五一瓩	三、九五三、五〇一瓩
	價額	四一四、九三八円	四一九、八九八円

樺太

鰊	數量	四〇五、九〇五、六〇四瓩	六、八五五、七七三瓩
	價額	四、三一七、六二六円	六五三、七八八円
鱒	數量	八、一六一、八九九瓩	一、二九一、一九一瓩
	價額	三五〇、一〇〇円	二七六、九七八円

南洋群島

鮪	數量	八、九五六、四一二瓩	一四四、八六六瓩
	價額	二、二〇五、〇五〇円	一三四、三八六円
鰹	數量	四二七、〇四一瓩	一四四、八〇六、〇九二瓩
	價額	一一六、四四九円	五四四、〇七五円
鰊	數量	一、一四、八〇五、九〇四瓩	三、二一三、四六五瓩
	價額	三八二、八一〇円	七二六、六五九円
鰯	數量	二、七六三、六六〇瓦	一、六一四、三四七瓩
	價額	五三二、六二九円	五六一、九〇一円
鰤	數量	三、九五三、五〇一瓩	
	價額	四一九、八九八円	

高瀬貝

鰹	數量	四二七、〇四一瓩	一四四、八六六瓩
	價額	一一六、四四九円	一三四、三八六円

三七　水産製造物　昭和九年中

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
總數	價額	四五、五二五、〇一七円	二、二九〇、九三二円	三、五三二、〇五〇円	一、八一〇、八五八円	一六七、〇四七、六四一円
節類	數量	一四、五二九瓩	一、〇三七、八八三瓩	一三、六二八、〇六五瓩		二三、三九七、五四六瓩
	價額	四、七七六円	五四六、六六五円	二、七七五、九八二円		一五、八二三、八五九円
素乾品	數量	八、六三三、四二三円	六〇九、四八三瓩	—		一二一、〇七六、三〇六瓩
	價額		四〇七、一二四円	—		二三、五三〇、三九三円
鹽乾品	數量	八、〇九三、〇九二瓩	三一七、三四七瓩	四四九、九九六瓩	一、八〇八、三六三円	五六、四六九、九四一瓩
	價額	一、九七六、五六二円	一五三、〇九二円	九八、九九〇円		八、八二〇、八一一円
煮乾品	數量	一七、五八九、五〇七瓩	三、一五五、六〇七瓩	一九六、五八四瓩		四七、二一〇、五八四瓩
	價額	五、七〇〇、七三九円	六二六、二八六円	一三二、二一〇円		一九、七八一、五〇九円
鹽藏品	數量	三五、五〇二、五九八瓩	六二五、四三二瓩	九、九九九、九六三瓩		六四、〇二七、九四六瓩
	價額	四、三七五、八六〇円	九六、二四四円	九四二、一七五円		九、七〇四、一七七円
肥料	數量	一四九、八二五、五四四瓩	一一五、六一四瓩	八一、四六五、七二〇瓩	—	四二四、〇一七、一七三瓩
	價額	一〇、八〇〇、三七九円	八、一三九円	七、一八五、五二七円	—	二八、九一三、〇三〇円
魚油	數量	六七五、〇〇三瑠	一二、六三二円	—	—	八二、六三八、八五五瓩
	價額	七、二五五、四八〇円	—	二二二、八八七瓲	—	八、七〇二、五一一円
其他	數量	—	—	七九八、〇六五瓩	一五、九三二瓩	一一三、七八七、八九三瓩
	價額	六、八八七、八〇八円	四四〇、七五一円	四五〇、〇七一円	二、四七五円	五二、〇五一、三五一円

主要製造物

朝鮮

鰮（肥料）	數量	一二三、三四六、八三四瓩	鰮油	六、八〇〇、四六四円
	價額	九、七一六、三二九円		
海苔	數量	四四二、二八六、一二〇枚	明太魚（素乾）	四〇、六六八、八六〇瓩
	價額	二、四七六、八〇六円		三、五五四、八五八円
石首魚（鹽藏）	數量	四、一九六、七三七瓩	鯖（鹽藏）	九、九九八、五五八瓩
	價額	一、〇〇三、一九七円		九六一、五四〇円
蒲鉾	數量	二、二四一、五九〇瓩	鰛（煮乾）	六四、六六三瑠
	價額	六七四、八二一円		四、四六四円
鰛（煮乾）	數量	二、六八九、一四三瓩	石首魚（鹽乾）	二一、五九三、〇五〇瓩
	價額	四五〇、八七四円		三、五一九、八二九円
眞鰯	數量	三三七、七七五瓩	鰯（鹽乾）	四、一九六、七三七瓩
	價額	四〇八、二九八円		一、〇〇三、一九七円
海人草（素乾）	數量	三一四、九三三瓩	鰆（鹽乾）	一、〇六一、九七一瓩
	價額	一〇四、九九一円		二九二、八一九円
魚油	數量	—	鰆（素乾）	一四一、〇二九瓩
	價額	一三、六三二円		二四〇、四六〇円
			珊瑚	—
				八三、二四〇円
			推翅（素乾）	一四一、一〇九瓩
				七三、八五八円

樺太

鰊粕	七〇、八一五、一五〇瓩 六、三七一、一四八円	鰊（素乾）鯑	三、三〇三、二一九瓩 一、〇七六、七六四円
棒鱈（素乾）	八三六、九七四瓩 二九四、〇二一円	身欠鰊外割鰊（素乾）	三、〇八二、四三一瓩 三八五、九八五円
鱒（鹽藏）	三、二三一、一七五瓩 三三五、三〇一円	鮭（鹽藏）	四三七、二七三瓩 一一〇、一三二円
鱒筋子（鹽藏）	六六、二八五瓩 三三、五〇一円	寒天	一二一、三一六瓩 三〇三、七一八円
鱈粕	二、〇〇六、三七〇瓩 一三八、四五三円	鰊油	一八二、三五七瓲 六六九、一二八円

南洋群島

鰹節	一、五九四、一七六瓩 一、七一四、五九〇円	鮪節	九三、三二九瓩 八五、二三七円

昆布	六、〇二九、二九七瓩 九五〇、八七〇円	鰑（鹽乾）	四三三、八九〇瓩 九六、五五二円
鰑（鹽藏）	三、五二六、五一五瓩 一五二、一七八円	胴鰊（肥料）	四、六〇一、七一〇瓩 三九四、九六〇円

海參

	二四、〇〇四瓩 八、〇七一円

三八 製鹽 昭和九年

		臺灣		內地	
從業者		六二六、〇五三		三六、八五五	
專業	（官製鹽）	—		—	
	（私製鹽）	七、八八〇		—	
兼業	（官製鹽）	—		五、三三三	
	（私製鹽）	—		四、五五〇	
鹽田筒數		七		七八三	
鹽田面積（坪）		二、六三六・〇三		一六	
生產數量（瓲）		一、九三七・四五		一、三四九・二七	
生產價額（圓）		一四三、七一七、八〇〇		一九一、一〇四、九七四	
		四〇、九四九、三四〇		四、五三三・九二	
		二、一八八、三五		一、六〇九、五五七	
		九九六、三八五		六七六、三〇〇、五一六	

三九　鑛産物

昭和九年中

生産總價額　朝鮮　六九、一七二、九四〇円　臺灣　一八、九四七、六六七円　樺太　九、一二九、一六一円　南洋群島　一、七七八、七五〇円　內地　四八、九四一、二三五円

主要鑛産物

朝鮮

金　一〇、七一〇、五四一瓦　三三、二一四、九一四円

砂金　一、七一七、〇六一瓦　五、三二三、三四四円

銅　一、四三四、三六八瓧　九三三、〇三二円

石炭　一、六八八、六四七瓲　九、九四〇、五六六円

金銀鑛　二七、九六八瓲　二、五二一、四八一円

タングステン鑛　三六八、三四〇瓧　七三四、二一〇円

臺灣

石炭　一、五三〇、九二六瓲　八、四七〇、三七五円

金銀鑛　一三〇、二九七瓲　五、〇〇八、八一二円

揮發油　七〇、三一七竰　四一七、二一五円

原油　五五、七七一竰　三〇八、九五一円

樺太

石炭　一、一九六、六四七瓲　九、一一九、一六一円

南洋群島

燐鑛　七二、一四八瓲　一、七七八、七五〇円

金　一、〇〇二、九二八瓦　三、一六九、三五三円

銀　三二、二八七、一八一瓦　一、四六八、〇七九円

鐵鑛　一七六、〇〇八瓲　八七九、八一〇円

カーボンブラク　一、三六七、一九七瓧　四八八、二六七円

四〇 工場 昭和九年 （職工五人以上の工場のみを示す）

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
工場	總數	四、八二六	六、七四九	一九八	四四
	動力を有する工場數	—	—	一五八	四四
原力機	臺數	—	七、六三二	一、九六三	八四
	馬力數	—	四〇九、九〇二	一五一、三六一	五、九三一
職工	總數	九八、七九八	六六、四四四	六、八三六	二八九
	男	六六、一六五	四五、五五二	五、五三〇	二八七
	女	三〇、六三三	二〇、八九二	一、三〇六	二
生産品價額（円）		三七三、二〇六、六七七	・二一五、六四五、三三八	七二、五〇一、五一一	一四、〇九八、五一九
職工一に付生産價額（円）		三、八五五・五二	三、二四五・五二	一〇、六〇五・八四	二、三七七・〇九

備考　朝鮮は昭和八年の計數を掲ぐ

四一 工産物 昭和九年中 （朝鮮は昭和八年）

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
生産總價額	三九七、三五五、六八五円	二二五、六四五、三三八円	七一、六八九、八七六円	二一、四九二、九二七円

主要工産物

朝鮮

煙草	三四、二七七、三一三円	生絲	一、五九五、八八二斤	一五、八六三、五二九円
セメント	二四八、九四四瓲 五、六三五、四七〇円	藥劑	一五、九三一、七五七円	
肥料	三一、三三五、一二七円	ゴム靴及其他ゴム履物	三三、七九三、一四九足 六、九一三、〇六四円	
製紙	四、九三九、四一一円			

臺灣

砂糖	六四七、〇四三、二五九斤 一一九、七三五、七四五円	鳳梨罐詰	三七、一一一、三九六箇 六、二五〇、四五四円	
セメント	一四一、一三四瓲 三、八一〇、六一八円	肥料	二六九、七四四噸 七、九四九、〇三一円	
綿織物	一、五九五、八八二斤 一五、九三一、七五七円	アルコール（變性共）	二六九、七四四噸 七、九四九、〇三一円	
車輛	四、四五八、七八四円	帽子	一五、三二八、二〇七箇 五、一九五、七九九円	
吠	三一、七九三、一四九足 六、九一三、〇六四円			

包種茶 三、三九九、七四〇瓩 三、〇七四、九八七円

烏龍茶 三、一七五、四三六瓩 三、五六二、三〇一円

煉瓦 二一〇、七七一、四九〇箇 二、二〇四、九三七円

樺太

製紙 一五六、一九六瓲 三七、二二九、八八三円

パルプ 一七九、〇九六瓲 二八、二四七、八九四円

清酒 二九、一三九頭 一、〇五四、三四八円

蟹及鱒罐詰 一、六四一、六九六円

南洋群島

砂糖 四五、〇八七瓲 一〇、二四四、八七九円

酒精 六四一、一二八立 二三二、二八一円

會社

朝鮮併合前後に於て存在した朝鮮人の會社は合名會社三、合資會社四、株式會社十四であり、外に内地人との協同事業二十社であつて、其の中朝鮮銀行及東洋拓殖株式會社の二特殊會社を除けば殆ど見るべきものはなかつた。

内地人の朝鮮に於ける會社事業は相當古い沿革を有するが、明治四十三年末には合名會社十二、合資會社三十六、株式會社五十四、計百二社で、尚内地會社であつて支店を設置したもの、數は二十五社に過ぎなかつた。

斯の如く併合當時極めて微々たるものであつた朝鮮の會社事業も逐年堅實な發展を遂げ昭和九年末には二、三〇二社の多きに達した。

臺灣に於ける會社は大正十二年末に於て資本金總額六億二千百五十八萬圓に達したが、其の後財界の不況に伴ひ大規模會社の解散、減資又は合併するもの多く、資本金は漸次減少したが社數に於ては却つて六割餘激增した。之は不況の爲個人商店の會社に變更するもの續出し、且タクシー及乘合自動車會社等の勃興に依り其の數を激增した爲である。

樺太に於ける會社設立の狀況は産業の發達に伴ひ大規模の企業漸次增加し殊に近年各種工業を目的とする大會社の設立せらるるもの多きを加ふるの傾向を示して居る。

四二　會社營業別（單位金額　千圓）　昭和九年末現在

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
總數	社數	二、三〇二	一、〇六一	二九五	一九	二、二四〇
	資本金總額	七三、八一五	四九、四四一	四一、七五一	四、〇〇〇	八八、五三三
	資本金拂込額	四三、五〇七	三五、八三三		三、三一三	一五、五七六、一七三
農林業	社數	一一七	七四			二、二四〇
	資本金總額	四八、四〇五	三二、四五六			一六六、九六三
	資本金拂込額	三三、六七八	一三、八四九			一二三、一一三
水産業	社數	二六	一六	一五	四	三四〇
	資本金總額	三、六九七	五、二一六	一、一五	八四	一五四、六二七
	資本金拂込額	二、六〇一	二、六七九	一〇九	八四	一〇九、七一〇
商業	社數	七八四	五四三	一八一	二一	五一、四五五
	資本金總額	五九、九四七	六六、八一七	二、九一七	二、九一七	四、〇三七、七六六
	資本金拂込額	三六、九六六	三六、〇七〇	二、六〇五	二、二九七	二、九八六、七七九
工業	社數	五八七	二七一	八七	五	二一、七〇七
	資本金總額	一五六、五三〇	二七〇、八四六	一六、二三三	二〇、六五〇	八、四八五、〇〇〇
	資本金拂込額	一一五、五五七	二〇〇、三四八		一〇、八六二	六、三四三、五七五

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
鑛業	社數	二六	二六	三	一	四六六
	資本金總額	五三、五八五	四一、六八六	一三	一	一、〇三三、八一四
	資本金拂込額	三五、八三一	二六、四九〇	二〇〇	一	七九二、八三一
銀行及金融業	社數	一四九	六五	二三	一	三、三四五
	資本金總額	一二六、五三五	四五、〇一五	七、四六〇	一	三、一七八、三四〇
	資本金拂込額	六九、四〇七	二七、〇七〇	四、七〇〇	一	二、〇三五、三五〇
運輸業	社數	二三	一四七	六	一	六、二七五
	資本金總額	一〇五、六九八	一七、四〇七	一四、九一二	二、〇〇〇	二、三七、三六二
	資本金拂込額	五三、九九八	九、三一八	一四、九一二	二、〇〇〇	一、八一五、四二二
其他	社數	三八〇			一	二、六九五
	資本金總額	一九九、四二三			二五	一、八一五、六〇〇
	資本金拂込額	八四、四六九			二	一、五八一、三八二

四三、會社組織別（單位金額　千圓）　昭和九年末現在

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
總數	社數	二、五〇二	一、〇六二	三九五	八八、五二三	
	公稱資本金又は出資額	七二三、八一五	四六九、四四二	六三、一四四	二一、三〇八、四七四	
	拂込資本金又は拂込出資額	四三一、五〇七	三一五、八三三	四二、七五二	一八、五六八	一五、五七六、一七二
株式會社	社數	一、〇二四	四四八	一二四	一五	二三、一三〇
	公稱資本金	六五九、九九六	四四四、三三九	五八、三七一	一五	
	拂込資本金	三七九、七五八	二九〇、七三〇	三六、九七八	一五	
合資會社	社數	一、〇九七	五三二	二二七	四	四九、六九一
	出資額	三二、七九三	一六、八五四	三、四八〇	一、五一六	
	拂込出資額	三一、六三三	一六、八五四	三、四八〇	一、五一六	
合名會社	社數	一八一	八二	四四	五	一五、七一三
	出資額	二一、〇三六	八、二四九	一、二九三	八五	
	拂込出資額	二〇、一一六	八、二四九	一、二九三	八五	

備考　內地の株式會社中には株式合資會社並相互會社を含む

金融

四四　銀　　行　（單位金額　千圓）　昭和九年末現在

中央銀行としては朝鮮に朝鮮銀行、臺灣に臺灣銀行がある。尙特殊銀行としては朝鮮に朝鮮殖産銀行、臺灣に日本勸業銀行支店、樺太に北海道拓殖銀行支店がある。南洋群島には未だ銀行なく、之に代つて郵便爲替貯金事業が金融機關として重要な地位を占めてゐる。

	朝鮮	臺灣	樺太	全國
本店	二	五	一	五九七
支店及出張所	一八三	六一	一三	四、七二九
公稱資本金	一〇〇、六七五	二八、三〇〇	二、〇〇〇	二、四四一、八一七
拂込資本金	六一、七三一	二〇、六〇〇	一、四七五	一、六五六、六二八
積立金	二三、六七一	三、九一三	二〇三	一、〇五一、三〇九
預金	三四六、二三七	二〇三、六四九	三二、三七〇	一三、二三五、六〇二
貸出金	六九一、七二八	三八二、二七八	一八、六二五	二二、二三五、五七八
純益金	六、四三六	一、〇六三	—	二三四、一四四

四五　銀行券發行高　（單位　千圓）　昭和九年末現在

外地に於いて銀行券の發行を許されて居る銀行は朝鮮銀行と臺灣銀行とである。銀行券の保證準備に依る發行高は朝鮮銀行券は五千萬圓を、臺灣銀行券は二千萬圓を限度とする。

	朝鮮銀行券	臺灣銀行券
發行現在高	一九二、四五七	六二、六五三
正貨準備高	一二三、七九九	二三、四五四
保證準備高	七八、六五八	三九、二〇〇
餘裕高	（二八、六五八）	（一九、二〇〇）
（制限外發行高）		

四六　金融組合及信用組合　（單位金額　圓）

外地に於いて銀行の發達は土地の發展と伴はず、これが補助機關の異常な發達となつた。朝鮮に於ては金融組合が發達し、農民を組合員とするものを村落金融組合、小商工業者を組合員とするものを都市金融組合とし、いづれも庶民金融機關として該地の金融界に重要な地位を占めてゐる。なほ臺灣樺太、南洋群島に於ける信用組合も、金融機關として其の發展には見るべきものがある。

	朝鮮（金融組合）	臺灣（信用組合）	樺太（信用組合）	南洋群島（信用組合）
組合數	六三一	三七四	四八	八
組合員數	一、一二八、三三〇	二四五、六〇二	六、四四一	一、一九
出資金（總額	一三、五四一、〇〇〇	一五、七九五、七四二	一、六九九、五〇〇	二五六、五五〇
出資金（拂込濟額	八、五一三、〇〇〇	一三、八四三、四二三	一、四五五、六〇七	一三三、四二五
準備金	—	七、八三八、七九九	—	—
政府下附金	四、一三二、〇〇〇	三、六七一、三八一	三四六、三八九	二、六七七
積立金	一四、六八〇、〇〇〇	九、〇七九、〇九九	五一五、二九八	九〇、〇〇〇
借入金	五五、八六二、〇〇〇	二六、九〇四、〇五五	一、八九二、五〇六	六八、四五三
貯金	—			

	朝鮮（金融組合）	臺灣（信用組合）	樺太（信用組合）	南洋群島（信用組合）
預り金	九五、一八二、〇〇〇	六五、五三八、六三九	—	一四二、三五一
貸付金	一三四、三三二、〇〇〇	六六、八三六、三七五	二、九二六、三七五	二六三、一六九
剰餘金	—	二、四二一、四九五	一四二、四九五	—
純益金	一、三八八、〇〇〇	—	—	—

備考　朝鮮は昭和九年度末、臺灣は昭和十年六月末、樺太は昭和九年末、南洋群島は昭和十年二月末現在とす。

四七　無盡業

（單位金額　圓）　昭和九年末現在

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
本店	三四	—	—	—	二七三
支店及出張所	—	—	六	—	七九七
公稱資本金	四、五七〇、〇〇〇	八五〇、〇〇〇	三九七、〇〇〇	三八、五四〇、五〇〇	三八、五四〇、五〇〇
拂込資本金	一、七五〇、〇〇〇	三八七、〇〇〇	二三五、〇四〇	一九、三三〇、五七〇	一九、三三〇、五七〇
組數	一、四三五	七九八	七〇	（組合數）五二五	六七、〇三三
口數	—	—	一、七六二	—	二、〇一四、九〇五
給付金契約高	二二、〇六〇、九〇〇	三六、三三三、〇〇〇	一、五三四、六〇〇	一、三〇三、四六七、七一四	一、三〇三、四六七、七一四
掛金契約高	—	—	—	四、四三〇、三九三	一、三七四、三四二、八二五

朝鮮の無盡業は大正十一年四月朝鮮無盡業令制定以來特に進展の勢を示したが昭和六年六月準據法令の改正を行ひ益庶民金融機關としての發展を期待せらるゝに至つた。

臺灣に於ける無盡業は大正十一年勅令第五二一號を以て無盡業法中一部を除き施行されることゝなつて以來庶民金融機關として相當の機能を發揮して居る。

樺太に於ける無盡業は昭和五年十一月勅令第二百十二號を以て昭和六年四月より無盡業法の施行を見るに至り庶民金融機關として健實なる機能を發揮して居る。

南洋群島は未だ無盡業に關する法制なく、各島に於て無盡講が金融上に利用せられて居る。

四八　預金部地方資金融通高　（單位　圓）　昭和九年末

朝鮮	二五六、六三九、九〇〇
臺灣	七〇、三六八、〇〇〇
樺太	四、四〇一、五五〇
南洋群島	五〇、〇〇〇
內地	一、五七六、七一九、八三三

四九　郵便貯金　（單位金額　圓）　昭和九年度

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
預入高	口數	九、六六三、七三四	一、五二一、一六六	四三四、五七二	五〇、三五五	一三四、一五五、五九六
	金額	一一六、五〇六、三三〇	三〇、九九九、八一〇	一〇、四一四、八五四	二、〇六〇、三二六、五二一	二、九四九、九〇一、二九〇
拂戻高	口數	二、八〇一、二五七	六四八、八四二	一八九、六三七	三三、五五八	四七、七二〇、一六五
	金額	一〇八、六八一、九三一	一八、七五七、六二〇	九、七六六、八一六	一、九〇七、九七六、三一〇	一、九〇七、九七六、三一〇
現在高	總人員	三、一五六、〇九四	五四四、九八三	一六六、八七三	五四四、九八三	五四四、九八三
	總金額	五三、六三一、五五三	二一、三六七、〇〇七	九、七四九、一〇八	二、九四九、九〇一、二九〇	二、九四九、九〇一、二九〇
	總人員一に付現在高	一六・六七	三九・二一	五八・四二	八九・六三	六八・五一
	人口一に付現在高	二・四九	四・一一	三一・一三	二一・六三	四三・二六
	人口千に付總人員	一四九・四	一〇四・九	五三一・九	二四一・四	六三一・四

五〇 郵便振替貯金 （單位金額 圓） 昭和九年度

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
加入人員		三、二一七	五八一	—	三	一九、〇〇六
脫退人員		一、二四七	一九八	—	—	八、七四八
受入高	口數	三、〇五八、九五〇	三、三四七、二八七	三四、四三〇	三九、六〇五、九〇〇	
	金額	四三六、六五九、七四五	一二九、一八五、八九〇	二、一六四、一〇三	一、六六三、三九二、七〇〇	
拂出高	口數	九二七、二七九	二三八、一九〇	一二、〇三七	一四、一五九、五七七	
	金額	四五六、一〇三、〇三五	一二九、一三四、一六九	三、六九四、三三一	三、七〇八、一一三	一、六六三、〇八〇、一一九
總人員		三〇、六三九	五、四一一	八一八	—	二六一、〇六一
總金額		五、四八八、七六〇	八四九、二九五	二〇七、九三〇	—	六八、八四四、五九六
現在高	總人員一に付現在高	一七九・一	一五七・〇	二五四・二	—	二六三・七
	人口一に付現在高	〇・二六	〇・一六	〇・六六	—	一・〇一
	人口千に付總人員	一・四五	一・〇四	二・六一	—	三・八三

五一 郵便爲替 （單位金額 圓） 昭和九年度

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
內國爲替						
振出	口數	三、八〇八、二三七	一、〇八五、四四八	八一、五九〇	四二、四四六、六八三	
	金額	一二三、〇九七、五四〇	二九、一四七、〇〇七	六、七八四、八三〇	九四八、六三二、〇九九	
	口數一に付金額	三二・〇五	二六・八五	八三・一六	二二・三五	
拂渡	口數	三、七九八、六三七	六三五、四九〇	一七、四五一	四二、〇三二、四六五	
	金額	一二一、九二四、八七七	一七、八一五、四二四	五、八九〇、七二七	九四八、二四七、二三四	
	口數一に付金額	三二・〇九	二八・〇三	三三七・五六	二二・三六	
外國爲替						
振出	口數	七、七一一	三一	七一	六四、一二四	
	金額	四六六、四〇三	三八四、五一八	二、一九八	二、四〇九、三五五	
	口數一に付金額	六〇・四九	二九・三二	三〇・九〇	三七・五七	
拂渡	口數	四三、三二四	二、四四三	八一	二九一、〇三七	
	金額	一、〇四三、八三四	八三、四八五	二、七七九	八、六六八、七四〇	
	口數一に付金額	二四・〇九	三四・一九	三四・三一	二九・七八	

五二　簡易生命保險（單位金額　圓）　昭和九年度

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
新契約	件數	二〇六、二二九	五二、一九九	一八、五五三	一七二	三、〇五五、九二九
	保險料	二〇〇、五八四	六六、一六三	二〇、九〇六	一九九	二、七一五、五一〇
	保險金額	三八、三五二、一七四	一二、三六三、七七三	三、六六一、三七一	三三、七〇三	四三二、七九六、二四八
	一件に付保險金額	一八五・九七	二三六・八五	一九七・九五	一九五・九五	一四一・六三
年度末現在	件數	六五五、五〇九	二七五、七九一	八五、六四五	三、一四〇	二一、四九七、八九六
	保險料	六四八、一五〇	三四六、三六〇	一〇三、五四八	三、一〇九	一七、三三〇、九八六
	保險金額	一三〇、〇一三、四一〇	六四、六四一、九七九	一八、二五〇、〇二九	五三六、七二二	二、八一五、八五〇、六五四
	一件に付保險金額	一八三・〇八	二三四・三九	二〇八・二三	一七〇・九三	一三〇・九八
	人口千に付件數	三一・〇三	五三・一	二七九・九	三四・六	三一五・二

五三　郵便年金（單位金額　圓）　昭和九年度

		臺灣	樺太	內地
新契約	件數	四二	八六	四四、五九三
	掛金額	三四、六一七	三七、九六七	九、九五二、六一一
	年金額	一〇、七七六	一三、〇〇〇	五、二一七、一〇七
	一件に付年金額	二五六・五七	一五一・一六	一一七・二三
年度末現在	件數	九〇一	五一〇	三〇五、六〇三
	掛金額	二〇二、六四八	一五七、三三五	六三、〇四五、七八二
	年金額	八一、七四七	七七、五一七	二五、二四〇、五六七
	一件に付年金額	九〇・七三	一五一・九九	八二・五九
	人口千に付件數	〇・二	一・六	四・五

貿易

五四 貿易額（單位 圓） ×印入超

朝鮮（移出入は對內地、臺灣、樺太、南洋群島の貿易額を掲ぐ）

		總數	輸移出	輸移入	超過額
昭和元年	外國貿易	一四八、七一二、九八八	一二三、九三三、九三三	×	九九、一四四、八七八
	內國貿易	五八六、四一一、五九五	二四八、二三五、八五〇		八九、九三九、八九五
同八年	外國貿易	一一七、一四一、五三七	六四、三六八、二六四	×	一一、五九四、九九一
	內國貿易	六五五、六七一、六四五	三三九、八一七、一九六	×	一三、九六二、七四七
同九年	外國貿易	一五七、二〇一、一六二	七九、三七七、三〇九	×	二一、八三五、四四六
	內國貿易	八四七、三六、二〇三	四二九、六三三、六二一	×	三一、九二九、〇三九

臺灣（移出入は對內地、朝鮮、樺太、南洋群島の貿易額を掲ぐ）

昭和元年	外國貿易	一一、三三三、一五三	六二、〇〇七、六六六	×	一二、九九二、一七九
	內國貿易	三二三、五一四、三六七	一二一、四〇四、七八四	×	八〇、七〇四、七九九
同八年	外國貿易	五三、一四二、九六一	三五、四七六、五四三	×	一七、八一〇、一三五
	內國貿易	三八〇、六五九、三〇六	一四九、九一二、三九五	×	八〇、八三四、五一六
同九年	外國貿易	六四四、五四九、三八六	二八、〇三〇、九七四	×	一一、五三三、五六八
	內國貿易	四五六、四〇〇、九九五	一七六、九九〇、七四四	×	一〇二、四一九、五四七

樺太（移出入は對內地、朝鮮、臺灣、南洋群島の貿易額を掲ぐ）

昭和元年	外國貿易	九八九、五二六	四九、三一五、四八七	×	九八六、九一四
	內國貿易	一三〇、〇三九、五四七	二〇三、一〇九、五八三	×	一七、八三一、二一九
同八年	外國貿易	二、六一二	一七、六六六、四一八	×	九八四、三〇二
	內國貿易	六八、九三〇、八八三	二三〇、七四六、九一一	×	五一、〇九三、六四四
同九年	外國貿易	二、八三二	二六、三二八、四八九	×	二、三〇一、一七七
	內國貿易	七八、九三〇、八四三	二九、四一〇、二七一	×	一、〇九三、六四四

		總數	輸移出	輸移入	超過額
昭和八年	外國貿易	三六七、〇八八	一〇七、八八三	二五九、二〇五	× 一五一、三二二
	內國貿易	一〇四、八八六、〇九二	七三、四五五、五二四	三一、四三〇、五六九	四二、〇二四、九五五
同 九年	外國貿易	三七七、〇八六	二一、六二四	四〇九、〇二〇	× 三八七、三九六
	內國貿易	一三三、七七七、二六四	九六、六四八、一七一	三七、一三九、〇八五	五九、五一九、〇八六

南洋群島

（移出入は對內地、朝鮮、臺灣、樺太の貿易額を掲ぐ）

昭和元年	外國貿易	二九八、五一〇	八七、三三四	二一一、一七六	× 一二三、八三五
	內國貿易	一〇、二六六、二七三	六、一七五、五五三	四、〇九〇、七二九	二、〇八四、八三四
同 八年	外國貿易	一、〇一三、〇〇九	五八三、七五五	四三九、一三四	一四四、五〇一
	內國貿易	二六、七〇六、四〇六	八、一五五、九二〇	五五〇、四八六	九、六〇五、四三四
同 九年	外國貿易	二、二九八、三八〇	一、九六二、六八四	三三四、六九六	一、六二八、九八八
	內國貿易	二九、〇九六、〇九〇	一四、四六〇、六八五	四、〇五五、四〇五	三、八三五、二九〇

內地

昭和元年	外國貿易	四、四三二、二一二、三八四	二、〇四四、七二七、八九一	二、三七七、四八四、四九三	× 三三二、七五六、六〇三
同 八年	外國貿易	三、七七八、二六五、五七六	一、八六一、〇四五、七二八	一、九一七、二九九、八五八	× 五六、一七四、一四〇
同 九年	外國貿易	四、四四四、五二六、二三二	二、二七一、九二四、六三二	二、二八二、六〇一、六〇〇	× 一一〇、六五六、九七七

主要貿易品　昭和九年中

		輸移出 數量	輸移出 價額（圓）
玄米	總數	九、二一六、三四〇俵	一二、六一九、七九四
	移出	九、一八〇、五〇九俵	一二、〇八四、三二八
精米	總數	七、四八六、四一七俵	九九、八一四、一二一
	移出	七、三九四、九五五俵	九八、五三八、九一三
生絲及柞蠶生絲	移出	二、五六一瓩	一八、〇一六、四二八
綿織物	總數	三八一、二一九萬	二五、二五七、八七五
	移入	三七五、二八六萬	二五、一八八、九四八
絹織物	總數	三三三、五九五萬	二四、九五〇、六六三
	移入	一二六、八一四瓩	二四、九五〇、一一六
肥料	總數	二、七一七、八八五瓲	二〇、四九四、六八九
	移出	二、五六五瓲	一四、二三九、〇六一
機械類	總數	二〇五、〇四二萬	一八、八六六、八八〇
	移入	二〇四、七五二萬	一五、七七二、九四〇
豆類	總數	二、七一五、三二〇瓲	一八、九一四、四七一
	移出	二、七一五、三二〇瓲	一八、九一四、四七一
栗	總數	一七三、八九一、三三八平方米	四四、一六六、〇四九
	移入	七、一四二平方米	五、七〇八
		一七三、八八四、一九六平方米	四四、一六〇、三四一
絹織物	總數	四六、四三〇、三〇三平方米	二四、九五〇、六六三
	移入	二三六平方米	四八七
		四六、四三〇、〇七七平方米	二四、九五〇、一一六
肥料	總數	三三三、五九五瓲	二〇、四九四、六八九
	移入	一二六、八一四瓲	六、二五五、六二八
		二〇六、七八一瓲	一四、二三九、〇六一
機械類	總數	—	一八、八六六、八八〇
	移入	—	二、一三七、五七六
		—	一六、七二九、三〇四
栗	總數	二〇五、〇四二萬	一五、七七二、九四〇
	移入	二〇四、七五二萬	一五、七三六、九五七
		二、一五、三二〇瓲	三五、九八三

臺灣

輸移出

		數量	價額(圓)
鐵	總數	二五六、七五一瓲	一六、五七九、一二五
	移出	三六、四九二瓲	四、四八六、三五五
		二三〇、二五九瓲	一二、〇九二、七七〇
銅	移出	一、五八八瓲	二、〇四一、六六一
綿織物	總數	二三、四一六、〇一二平方米	六、四九七、六九八
	輸出	二〇、三八〇、七八二平方米	五、八四一、二〇三
		二、〇三三、三二九平方米	九一三、四九五
鮮魚	總數	五二、七八七、五四三瓩	六、四七三、四三〇
	輸出	四、〇八一、二七六瓩	一、一五六、五七八
		四八、七〇六、二六七瓩	五、三二六、八五三
繰綿	總數	八八五、二九四瓩	八、一四二、五一四
	輸出	六一二瓩	五、五〇〇
		八八四、六六二瓩	八、一三七、〇一四

輸移入

		數量	價額(圓)
繰綿及打綿	總數	一、七四六、二四〇瓩	一四、一一五、八一二
	輸入	三六一、一二二瓩	二、三一〇、九五二
	移入	一、三八五、一一八瓩	一一、八〇四、八六〇
石炭	總數	一、七四六、二四〇瓲	一三、一六六、八三八
	輸入	三六一、一二二瓲	六、九七三、〇二八
	移入	一、三八五、一一八瓲	六、一九五、八一〇
肌衣	總數		一一、三六三、〇九三
	輸入		二九五
	移入		一一、三六二、七九八
綿織絲	總數	九、七九三、一三四瓩	一〇、三二九、四七三
	輸入	七〇三、五二九瓩	八三八、六〇四
	移入	九、〇八九、六〇五瓩	九、四九〇、八六五
紙	總數		一〇、二七〇、一九四
	輸入		七二四、六六二
	移入		九、五五五、五三二

輸移出

		數量	價額(圓)
砂糖	總數	六六二、七二四、九五八斤	一三三、四四三、八二〇
	輸出	一、三七〇、〇三八斤	一二三、二七七
	移出	六六一、三五四、九二〇斤	一三、三二一、五四三
米	總數	七二七、二〇六、〇〇〇斤	一〇一、九二六、〇一四
	輸出	七三〇、五六〇斤	一〇九、五九三
	移出	七二六、四七五、四四〇斤	一〇一、八一六、四三一
芭蕉實	總數	一二三、一四一、一八七斤	八、八一〇、五四一
	輸出	一八、〇八八、七七七斤	六七二、六〇〇
	移出	一〇五、〇五二、四一〇斤	八、一三七、一四一
鳳梨罐詰	總數	二、三三二、六一二打	五、〇六九、六五五
	輸出	二一〇、三九九打	五三三、五三〇
	移出	二、一二三、二一三打	四、五三七、一二五
鳥龍茶	總數	六、一四一、三〇四斤	一三五、五一〇、一二六斤
包種茶	輸出	五、八四九、八二三斤	五九、三五二、二六八斤
	移出	二九一、四八一斤	七六、一五七、八五八斤
樟腦及樟腦油	總數	四、九四六、一三九斤	一八、四五七、〇八四箇
	輸出	一、二一〇、一〇七斤	八、六六九、一九八箇
	移出	三、七二六、〇三一斤	九、七八七、八八六箇
酒精	總數	二三七、〇二三頓	六、九七九、八五五
	輸出	一、二三〇頓	二八、九三二
	移出	二三五、七九三頓	六、九五〇、九二三

輸移入

		數量	價額(圓)
綿織物及絹織物	總數		一七、二五八、七九七
	輸入		八、七一六
	移入		一七、二五〇、〇八一
大豆油粕	總數	二二六、八四〇、一九四斤	一二、二八四、九七八
	輸入	二三五、二三二、八七三斤	二、二〇四、四七五
	移入	一、九〇七、三二一斤	八〇、五〇三
鐵	總數	六九、九三六、五六八斤	一二、三〇一、八二四
	輸入	四、六二二、九一五斤	七八四、五六三
	移入	六五、三二三、六五三斤	二、五一七、二六一
木材	總數		七、三八九、六九一
	輸入		一八、三六四
	移入		七、二七一、三二七
硫酸アムモニウム(粗製)	總數	一三五、五一〇、一二六斤	一三、一六八、四二九
	輸入	五九、三五二、二六八斤	五、五三三、六〇七
	移入	七六、一五七、八五八斤	七、六四四、八二三
ガンニー嚢(故共)	總數	一八、四五七、〇八四箇	六、四六〇、四一六
	輸入	八、六六九、一九八箇	二、三八二、六二四
	移入	九、七八七、八八六箇	四、〇七七、七七八
紙	總數		四、五三一、八〇七
	輸入		一六、一五七
	移入		四、五一五、六五〇

輸移出

		數量	價額(圓)
帽子	總數	一二、九六二、二八四箇	三、九四六、四九三
	輸出	一七、八七八箇	八、六四九
	移出	一二、九四四、四〇六箇	三、九三七、八四四
石炭	總數	二六七、三六七瓲	二、二四四、八八四
	輸出	一六二、〇三八瓲	一、三八七、四七九
	移出	一〇五、三二九瓲	八五七、四〇五
鮮魚介	總數	七、三五三、五一六斤	二、六三三、八一二
	輸出	四二三、二五四斤	二一二、四一〇
	移出	六、九三〇、二六二斤	二、四二一、四〇二
樺太			
紙	移出	一六〇、六八四、四六八瓲	三九、七六七、一一九
木材(丸太及挽材)	移出	一、九三三、六二五立方米	二五、四八五、四九五
パルプ	移出	一二四、二五九、八四五瓲	一七、五七三、二三九
昆布	總數	四、九七一、九一二斤	一、七二〇、五八一
	輸出	一、四六二斤	三一一
	移出	四、九七〇、四五〇斤	一、七二〇、二七〇
米	移入	六四三、二三一箇	一〇、三八六、八二一
藥品	移入	—	三、七九〇、五九九
煙草	移入	一七八、八六〇打	二、三九四、五五四
麥酒	移入	四、〇九五、七四六斤	七一五、〇七二
味噌	移入	一、七〇〇、九四九斤	六八八、一二〇
砂糖	移入		六一二、三二一
乾鹹魚	總數	二三、七七六、六二五斤	四、三六六、七二三
	輸入	四、七七一、七〇九斤	四〇九、九三一
	移入	一九、〇〇四、九一六斤	三、九五六、七九二
製帽原料	移入	—	二、四一六、八五五
大豆	總數	三八、八六一、三〇九斤	二、九一〇、六四一
	輸入	三六、七七九、五八一斤	二、六五六、〇〇六
	移入	二、〇八一、七二八斤	二五四、六三五

輸移入

		數量	價額(圓)
鯑	總數	二、一九六、七三八斤	九五八、五四七
	輸出	二五斤	一〇
	移出	二、一九六、七一三斤	九五八、五三七
乾魚	移出	五、三七九、九〇四斤	一、〇六三、二三四
蟹罐詰	移出	二〇五、六二三打	一、一四三、三七四
鹽魚	移出	四、四〇五、五七〇斤	三一八、七九二
魚油	移出	四六、五七五弗	五六六、八四四
南洋群島			
砂糖	總數	—	—
	輸出	—	—
	移出	—	—
コプラ	移出	—	一、〇七六、九一六
燐鑛	移出	—	一、三九一、四四九
鰹節	總數	—	一、八二一、八一〇
	輸出	—	三〇〇
	移出	—	一、八二一、五一〇
酒精	移出	—	四六四、四九五
布帛及同製品	移入	—	五五五、九八三
醬油	移入	一七、七三四箇	四四五、五九〇
果實	移入	—	五六八、四五四
蔬菜	移入	—	五〇八、六二七
米及籾	總數	—	一、五二五、二〇九
	輸入	—	一七七、八六八
	移入	—	一、三四七、三四一
油脂蠟及其の製品	移入	—	八五一、四五六
布帛及同製品	總數	—	九〇六、二七六
	輸入	—	四二三
	移入	—	九〇五、八五三
煙草	總數	—	四六七、八三四
	輸入	—	三七二
	移入	—	四六七、四六二
木材及製品	總數	—	九五七、七八七
	輸入	—	三、五〇一
	移入	—	九五四、二八六

交通

五五　鐵　道

國有鐵道

昭和九年度

		朝鮮	臺灣	樺太	內地
營業線（粁）		三、〇七七	九九九	三四三	一六、五三五
百平方粁に付營業線（粁）		一・三九	二・七八	〇・九五	四三・二
運輸收入（円）	旅客（人）	二五、六二四、八一五	一八、三四四、六五三	一、五二八、九五二	九一三、五六四、五六六
	貨物（噸）	七、六八一、一七七六	五、七九六、一九八	七六五、五六三	七七、四七七、八三七
	手小荷物（圓）	五〇、三〇七、六四〇	一四、九九六、九八七	七三〇、〇〇〇	六三、三六二、九〇五箇
總數		五〇、一四八、五一四	二一、六二六、六二三	二、四五九、九七八	四九二、七七七、四四三
旅客		二三、四〇〇、二九五	七、五二六、七五〇	八六五、四六七	二五五、〇二六、八〇八
運輸收入（円） 貨物		二五、七九〇、五一三	一三、五七三、九一七	一、五二二、三二六	二八、六八一、一〇一
手小荷物		一、九三七、七〇六	五二五、九五六	八二、一八五	一九、〇六九、五三四
營業費（千円）		六二、三三〇	一二、〇八八	二、四九五	三一四、一二六
損益（千円）		二一、六一二	九、五三九	七七	二〇四、五四一

地方鐵道

		朝鮮	臺灣	樺太	內地
營業線（粁）		一、一六三	五一〇	二三八	七、〇八八
百平方粁に付營業線（粁）		〇・五三	一・四一	〇・六六	一・八五
運輸 旅客（人）		六、四七四、〇〇五	三、一八九、二八五	二九九、八九七	四六二、三六二、六七〇
運輸 貨物（噸）		二、五八三、二一六	七七八、六二四	四一〇、九一四	二四、八五九、六五〇
運輸收入（円）	總數	八、九一四、四四三	一、一〇〇、四六四	一、四二〇、三三七	八〇、〇六一、五〇三
	旅客	三、二五九、五四一	四三九、三一三	四三五、三二〇	五九、〇六七、五九一
	貨物	五、四四二、八一三	六二三、〇〇九	九二四、七四三	一九、三〇九、六六一
	雜	二二二、〇八八	三九、一四二	七〇、二七四	一、六八四、二五一
政府補助金（円）		五、〇〇〇、〇〇〇	七三、〇九一	一、一七二、三八六	七、〇五二、六一八

備考　朝鮮の計數には北鮮鐵道管理局線のものな合算せり、營業線は昭和八年度のものなり。
臺灣は會社專用線の運輸數量收入を含まず。
南洋群島には鐵道無く軌道も一般交通用として敷設されたものは無いが僅に官有としてはアンガウル島に於ける燐鑛運搬用のものと私設としてはサイパン島、テニアン島に於て南洋興發株式會社の事業用のものがある。
內地は營業線、百平方粁に付ての營業線及政府補助金のみ昭和九年度とし他は昭和八年度なり。

五六　船舶

昭和九年末現在

			朝鮮	臺灣	南洋群島	內地
汽船	登簿	隻數	二七一	一三九	一三	三、三六五
		噸數	五五、八〇六	九、六三四	一、三二七	三、八一一、七七三
	不登簿	隻數	四三〇	一二七	一九五	四、三四七
		噸數	四、六二二	一、五〇四	一、七〇〇	五〇、八〇八
			八六四	五七	八	一五、〇六一
帆船	登簿	隻數	二九、一七一	三、三一四	一、〇一三	八七四、九三五
		噸數	八、七六〇	七一七	一二七	三、四七六
	不登簿	隻數	—	—	—	四五八、八九八
		噸數	九一、九三一	八、五二三	四六〇	
石數船	登簿	隻數	—	—	—	—
		噸數	—	—	—	—
	不登簿	隻數	一七三	—	—	—
		噸數	一、六九二	—	—	—

備考　昭和八年五月二十五日より船舶法が臺灣に施行せられ從來の臺灣船籍規則は廢止せられた。

五七 命令航路 昭和十年度

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島
航路數	一九	一六	二〇	一三
航路補助額(圓)	八四九、〇〇〇	一、三三七、一〇〇	三四一、〇〇〇	六八二、二〇〇
航海度數(回)	一、一八一以上	七三八以上	一、〇六四	六三八
就航船 隻數	七四以上	三三	三二	一八
就航船 噸數	三二、五七〇以上	一三〇、七〇〇以上	三九、五七七	三四、〇六九

備考 朝鮮の就航船中には發動機船九隻、四七〇噸及高瀨舟四〇隻、二〇〇噸を含む。
南洋廳命令航路は群島の交通大系を成すと同時に唯一の郵便線を成して居る。

五八 航路標識 昭和九年末現在 (内地は昭和十年五月現在)

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
燈標	總數	一六四	三六	二六	三	六三五
	燈臺	九九	二二	七	二	三一四
	燈竿	二〇	五	四	—	一四三
	導燈	一	一	二	—	二七
	挂燈立標	一六	三	一三	—	三九
	挂燈浮標	二八	五	—	一	一二
晝標	總數	一四〇	六	一	一一三	一二八
	立標	五二	—	—	七六	五五
	浮標	七〇	五	一	二〇	七三
	繫船浮標	—	—	—	一〇	—
	澪標	六	—	—	—	—
	陸標	—	—	—	二	—
	導標	一二	一	—	五	—
警號	總數	二四	五	四	—	三二
	霧笛	二四	—	三	—	二八
	霧鐘	—	—	一	—	四
	霧砲	—	五	—	—	—

備考 内地の立標は陸標、導標、澪標を含み、導燈及導標は其の一聯を以て一個とす。

通信

五九　郵便　昭和九年度

		朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	内地
郵便取扱局所		八四三	一八二	七八	九	一〇、八九一
通常郵便物	引受	二九四、三二一、四三四	一九、九六一、八二三	一、五四二、一二九	四、六七四、九八六、九七七	七八、二二一、二四〇
	配達	三三一、八八〇、六四三	二八、三一八、一六三	二、四〇二、二二八	四、七七二、八六八、四四九	九三、〇八六、一二二
	入口一に付引受	一三・九	六三・八	一七・〇	六八・五	一五・一
	入口一に付配達	一五・二	九〇・四	二六・五	七〇・〇	一七・九
小包郵便物	引受	二、四一五、二三四	二三二、四二五	一三、二一六	六五、〇七三、四二九	六六一、〇六六
	配達	三、五七七、九一五	五八八、二六九	五〇、五八三	六一、八四七、六七三	一、一七三、八八二
	入口一に付引受	〇・一	〇・七	〇・一	一・〇	〇・一
	入口一に付配達	〇・二	一・九	〇・六	〇・九	〇・二

六〇 電信及電話　昭和九年度

電信

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
電信取扱局所	八五三	二〇三	八七	一〇	八、二一六
發信	七、一四八、四二三	一、六七一、六三八	九一六、一八五	二一六、二二七	六〇、六二六、六四〇
着信	七、〇七九、〇九二	一、七二七、八九四	八七〇、四七〇	一八四、六九四	六三、〇三六、四八〇
中繼信	一二、六九四、〇一三	二、一八七、四七三	一、四〇二、三七八	二六七、〇九八	一二四、四六四、九〇七
人口一に付〈發信	〇・三	〇・三	二・九	二・四	〇・九
〈着信	〇・三	〇・四	二・八	二・〇	〇・九

電話

	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	內地
交換局所	一九九	一一三	—	二	六、七一七
通話加入者	五五一	一七〇	七九	二	一、七二七
電話通話度數	三七、六五四	一六、一八四	五、二六三	四二六	八三〇、〇四一
	三九、〇七四、四〇六	九五、九一八、六五〇	二七、四九四、三六六	二、八八七、九八七	二、八八三、七八三、九九一、〇一八
人口千に付電話加入者	一・八	三・一	一六・八	四・七	一・二
加入者一に付通話度數	六、三四九・二	五、九二六・七	五、二三四・一	六、七七九・三	四、五五八・八

東洋拓殖株式會社

六一　資本及株式　（單位　圓）　昭和九年十二月末現在

明治四十一年設立當初の資本金額は僅に一千萬圓であつたが、朝鮮産業界の進展、滿蒙に業務地域擴張の結果大正七年五月二千萬圓となし、次いで中華民國、東部西比利亞、南洋方面に進出するに及び翌八年九月三千萬圓を增資し五千萬圓となつた。

資本金額	五〇、〇〇〇、〇〇〇
拂込濟金額	三五、〇〇〇、〇〇〇
未拂込金額	一五、〇〇〇、〇〇〇
株式數	一、〇〇〇、〇〇〇

	總數	政府所有株式	皇室所有株式	皇族及王族所有株式	其他
	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	二五一、二五〇	四五、四九八、七五〇
	三、〇〇〇、〇〇〇	—	八七五、〇〇〇	一七五、八七五	三〇、九四九、一二五
			三七五、〇〇〇	七五、三七五	一四、五四九、六二五
	六〇、〇〇〇		二五、〇〇〇	五、〇二五	九〇九、九七五

六二 貸借對照表（第三十二期） 昭和九年十二月末現在

資産（借方）

種類	金額（円）
拂込未濟資本金	一五、〇〇〇、〇〇〇
債券價格較差	八、五八九、二九〇
貸付金	一一五、三二七、五九八
株券及債券	三六、〇三七、七九六
特種事業	一二、六九三、四〇五
受託事業費	三、四五八、三九三
預ケ金	九、一九五、六七〇
地所	三一、六七六、八二八
山林	二、七六〇、六八〇
建物	五、六三四、二〇八
機械器具	一一五、二六四
農産物	二、五〇七、九一二
林産物	一三、七三〇
工産物	二四、二九七
地所建物譲渡高	二五、八七一、一四五

負債（貸方）

種類	金額（円）
資本金	五〇、〇〇〇、〇〇〇
缺損補塡準備金	七九〇、〇〇〇
配當平均準備金	一、一〇九、五〇〇
債券發行高	一八四、五六〇、三三五
定期預リ金	一四、四二八、三八〇
借入金	一三、三五九、四六五
地所建物譲渡受高	七、一六四、四七六
假受金	二、六八七、六七三
未拂金	二六七、二七四
契約保證金	三〇、八一三
身元保證金	五三五、八四
退職給與基金	三八五、三一七
前期繰越金	一四六、三五一
當期純益金	五六一、八〇

物品貸付高	四六八、〇三四
興業費	二、四九〇、八〇七
假拂金	二、四九一、七四八
未收金	一一三、〇〇〇
受取手形	二一七、三五七
現金	一四一、四八七
總計	二七四、八二六、六四九

總計 二七四、八二六、六四九

六三　損益計算書（第三十二期）（自昭和九年七月一日至昭和九年十二月三十一日）

利益

種類	金額(円)
總益金	二、三三二、三一
内 貸付金利息	三、九三〇、一三五
株券及債券收入	一、二六九、七五七
特種事業收入	一三九、八八三
受託事業收入	七九、七九五
預ケ金利息	一六〇、一八七
地所收入	三、六四二、八七三
山林收入	五八、四〇〇
建物收入	一、六三、七九七
地所建物讓渡高收入	五九七、七七一
物品貸付收入	九五、〇四六
收入手數料	一〇三、二三六
雜收入	八三五、八九〇
前期繰越金	一四六、三五一

損失

種類	金額(円)
總損金	二、三三二、三一
内 報酬及給料	四三八、九九一
雜旅費	三二〇、〇八五
諸稅	八〇、〇六九
仕拂利息費	五八一、六六〇
修繕費	五、三三六、八一二
備品及消耗品費	四八、〇〇九
通信費	五七、七九五
運搬費	二一、九六四
作業費	一〇〇、一八五
仕拂手數料	三六、九五五
農事補助費	四八、五六六
保險料	九三、三二三
	七、九九〇

總計	二、三三二、三一
貸借差損	四一、五六四
爲替差損	二、三九四、二七五
雜費	二〇九、二〇八
雜損	四五、四五〇
諸償却金	八三、七八九
當期利益金	五〇七、五三三
總計	二、三三二、三一

六四　利益金處分　（單位　圓）　昭和九年下半期

當期純益金	三六一、一八〇
前期繰越金	一四六、三五一
當期利益金	五〇七、五三二
處分內譯	
缺損補塡準備金	二八、八九四
配當平均準備金	七、二三四
配付納付金	一六二、五三一
後期繰越金	三〇八、八二二

備考

會社の利益金處分に付ては東拓法第三十六條に依り政府の認可を必要とする外次の方法に依るものとして居る。

一、利益の百分の八以上　缺損補塡準備金
二、利益の百分の二以上　配當平均準備金
三、利益の百分の十以下　役員賞與金
四、利益の內より以上の金額を引去りたる殘額は之を株主に配當し又は翌年度繰越金とす。

六五　貸付金現在高　（單位　圓）　昭和九年十二月末現在

種別	總數	朝鮮	滿洲	北部支那	南洋
土地改良及開墾	五、三九〇、〇八〇	四、八二四、七五〇	五六五、三二九	—	—
水利事業	三六、四四一、八六五	三六、四四一、八六五	—	—	—
（內水利組合）	三五、七五六、四一九	三五、七五六、四一九	—	—	—
市街土地建物	一九、九六五、六七三	三、四四〇、八一八	一五、四二〇、四九四	一、一〇四、三六〇	—
農事經營	二六、五六三、二六一	二四、三六一、二七二	二、一八六、九八八	—	—
林業	二、〇三五、九二九	四二、三八〇	二一三、五五〇	—	—
蠶業	一六七、五八二	一四〇、五八二	二七、〇〇〇	—	—
果實栽培	三八七、一九七	一六四、八二七	二三三、三七〇	—	—
肥料	一、三七一、七九四	一、二九一、一八七	八〇、六〇七	—	—
人蔘栽培	一八、四八七	一八、四八七	—	—	—
畜產業	六九八、五九一	六六六、〇三〇	三〇、五七一	—	—
水產業	一九〇、六五九	一五三、一五三	三八、五〇七	—	—
鑛業	三、一六八、五四五	二、七七八、四五五	二八、七〇〇	一六九、一九〇	—
製紙業	二七、一五九	—	二七、一五九	—	—
製材業	六二、三四四	二四、四九	—	—	—
紡織業	二、八一〇、三七九	一三五、〇〇〇	五三七、八七五	—	—
精米業	五六、四九七	五六、四九七	—	—	—

種別	總數	朝鮮	滿洲	北部支那	南洋
製油業	一一七、〇〇〇	—	一一七、〇〇〇	—	—
窯業	六九六、五〇四	四三八、七四八	二五七、七五六	—	—
釀造業	二二七、一八九	四〇、三五九	一八六、八三〇	—	—
諸工業	二五六、四九五	二六、八〇〇	二二九、六九五	—	—
運輸交通業	六八三、七二五	六六七、七二五	一六、〇〇〇	—	—
電氣及瓦斯	二、六五〇、四三六	二五四、〇五〇	二、三七三、三八六	二三、〇〇〇	—
災害救濟	一〇、一七六	一〇、一七六	—	—	—
衛生	八五九	八五九	—	—	—
教化	二八二、七九五	二六五、五九五	一七、二〇〇	—	—
雜資金	八、七五九、八五六	七、七四二、三三四	七六八、五二二	一九九、〇〇〇	五〇、〇〇〇
護謨栽培	二三九、八〇〇	—	—	—	二三九、八〇〇
麻及椰子栽培	一、五四〇、〇〇〇	—	—	—	一、五四〇、〇〇〇
移住民貸付	四七〇、九二四	四七〇、九二四	—	—	—
鹽業	四〇、〇〇〇	—	四〇、〇〇〇	—	—
總計	一一五、三二七、五九八	八四、四五六、三三一	二五、七五〇、九一八	一、四九五、五五〇	三、六二四、八〇〇

六六 移住民狀況

明治四十三年第一回の移住民を募集して以來每年一回宛昭和二年度迄十七回の募集を行つた。最近は移住適地の缺乏其他の事情に依つて之を中止して居る。

昭和九年十二月末現在

道別	移住民戶數 總數	移住民戶數 第一種	移住民戶數 第二種	讓渡地面積（畝） 總數	讓渡地面積（畝） 畑	讓渡地面積（畝） 田
總數	三、八九三	三、三二六	五六七	九、八九六	九二五	八、九七一
慶尙南道	七三四	六五一	八三	一、五二六	一六〇	一、三六五
慶尙北道	四二八	四〇一	二七	九八〇	一〇四	八七六
全羅北道	六九三	六一〇	八三	一、六〇二	一一一	一、四九一
全羅南道	五七〇	四八五	八五	一、五二七	六五	一、四六二
忠淸南道	二八五	二五二	三三	七二〇	三五	六八五
忠淸北道	一五	一四	一	四八	九	三九
京畿道	六二二	五一五	一〇七	一、八五二	三四八	一、五〇四
黃海道	五三〇	三八六	一四四	一、五九六	八六	一、五一〇
咸鏡南道	一〇	七	三	二七	六	二一
江原道	一	—	一	五	—	五
平安北道	五	五	—	一四	一	一三

備考 第一種移住民とは田畑約二ヘクタールの割當を受けた自作移住民である
第二種移住民とは約五ヘクタールを割當られ其の內一ヘクタール以內を自作し殘餘を小作に附する半地主移住民である

移

住

近年政府に於ても民間に於ても海外發展に對する諸種の施設を爲して其の奬勵指導を忘らず、又一般國民にも海外思想普及し社會的經濟的に難局に立てる我國狀と相俟つて移民の渡航も漸次增加の趨勢を辿つてゐる。

移住者の渡航地は明治の中葉年々一萬乃至二萬の本邦移民が渡航した北米本國及布哇に於て我契約移民の禁止、紳士協約、移民法の實施等我移民の入國を阻止する幾多の事實が起り、又加奈陀、濠洲等も本邦移民の入國を制限した爲明治末期から其進路を一は南米諸國、一は南洋地方に之を求めた。

六七 海外渡航者

	總數			非移民			移民		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
明治九年	七〇九	六〇八	一〇一	—	—	—	—	—	—
同十一年	一、一四〇	九〇七	二三三	—	—	—	—	—	—
同二十一年	六、五五三	五、四〇四	一、一四八	—	—	—	—	—	—
同三十一年	三、二九七	二八、六一八	四、六七九	—	—	—	—	—	—
同四十一年	二一、一五五	一七、〇一五	四、一四〇	一六、六九二	一三、九〇六	二、七八六	四、四六三	三、一〇九	一、三五四
大正七年	六二、〇八三	四九、一二四	一二、九五九	三八、八八八	三四、二八二	四、六〇六	二三、一九五	一四、八四二	八、三五三
昭和三年	三四、〇〇八	二三、一九一	一〇、八一七	一四、一五八	一〇、六八九	三、四六九	一九、八五〇	一二、五〇三	七、三四八
同七年	三〇、七五七	一九、九四一	一〇、八一六	一一、七二九	八、五三一	三、一〇八	一九、〇二八	一一、四二〇	七、六〇八
同八年	四二、四五一	二七、一六三	一五、二八八	一五、一三四	一一、二四四	三、八九〇	二七、三一七	一五、九一九	一一、三九八
同九年	四一、六四四	二六、四二一	一五、二二三	一三、五五七	一〇、〇〇二	三、五五五	二八、〇八七	一六、四一九	一一、六六八

六七　海外渡航者

	總數			非移民			移民		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
明治九年	七〇九	六〇八	一〇一	—	—	—			
同十一年	一、一四〇	九〇七	二三三	—	—	—			
同二十一年	六、五五二	五、四〇四	一、一四八	—	—	—			
同三十一年	三三、二九七	二八、六一八	四、六七九	—	—	—			
同四十一年	二一、一五五	一七、〇一五	四、一四〇	一六、六九二	一三、九〇六	二、七八六	四、四六三	三、一〇九	一、三五四
大正七年	六二、〇八三	四九、一二四	一二、九五九	三八、八八八	三四、二八二	四、六〇六	二三、一九五	一四、八四二	八、三五三
昭和三年	三四、〇〇八	二三、一九一	一〇、八一七	一四、一五八	一〇、六八九	三、四六九	一九、八五〇	一二、五〇二	七、三四八
同七年	三〇、七五七	一九、九四一	一〇、八一六	一一、七二九	八、五三一	三、二〇八	一九、〇二八	一一、四二〇	七、六〇八
同八年	四二、四五一	二七、一六三	一五、二八八	一五、一三四	一一、二四四	三、八九〇	二七、三一七	一五、九一九	一一、三九八
同九年	四一、六四四	二六、四二二	一五、二二二	一三、五九七	一〇、〇〇二	三、五五五	二八、〇八七	一六、四二九	一二、六五八

近年政府に於ても民間に於ても海外發展に對する諸種の施設を爲して其の奬勵指導を怠らず、又一般國民にも海外思想普及し社會的經濟的に難局に立てる我國狀と相俟つて移民の渡航も漸次增加の趨勢を辿つてゐる。

移住者の渡航地は明治の中葉年々一萬乃至二萬の本邦移民が渡航した北米本國及布哇に於て我契約移民の禁止、紳士協約、移民法の實施等我移民の入國を阻止する幾多の事實が起り、又加奈陀、濠洲等も本邦移民の入國を制限した爲明治末期から其進路を一は南米諸國、一は南洋地方に之を求めた。

六八　渡航地別移民

昭和九年中

	總數	男	女	比例(總數)
總數	二六、〇八七	一三、九四九	一二、一三八	一〇〇・〇
ソヴイエト聯邦	一、三一〇	一、三一二	八	五・〇
比律賓群島及グアム島	一、五四四	一、〇四〇	五〇四	五・五
蘭領東印度	三五六	二六八	八八	一・三
英領馬來	五九八	四二八	一七〇	二・一
英領北ボルネオ	一七四	一四一	三三	〇・六
英領印度	四三	一九	二四	〇・二
英領香港及葡領澳門	一一七	八六	三一	〇・四
佛領印度支那	三三	一四	八	〇・一
暹羅	二五	一八	七	〇・一
英領加奈陀	一〇五	六九	三五	〇・四
墨西哥	八〇	五四	二六	〇・三
巴馬	三	二	一	〇・〇
錫蘭	一	一		〇・〇
玖瑪	九	五	四	〇・〇
伯剌西爾	三、九六〇	二、五二二	一、四四八	一五・一
秘露	四七三	二六三	二一〇	一・八

亞爾然丁	一三	一一	二	〇・〇
暮利亞	一三	一〇	三	〇・〇
智利	九	六		〇・〇
エル・サルバドル	二	二		〇・〇
濠洲及新西蘭	一〇五	七九	二六	〇・四
佛領ニューカレドニア	四	二	二	〇・〇
英領フイジー島	一	一		〇・〇
コロンビヤ	二	一	一	〇・〇
ヴエネエズエラ	三	二	一	〇・〇
緬甸	一	一		〇・〇
英領南阿聯邦	三	二	一	〇・〇
英領東阿弗利加	一	一		〇・〇
其他	二	一	一	〇・〇

六九　目的別移民

昭和九年十二月末現在

目的別	總數	總數	農業	漁業	鑛業	製造業	土木建築業	運輸交通業	商業	家内労働者	その他
總數		二六、〇九二	二三、九二五	六七九	四九二	五三五	七一	三〇	九〇	二七	一、七九六
ソビイエト聯邦		一、三一〇		五	四九二	一七九	六三	一六	三一七	七	八一六
比律賓群島及グアム島		一、五四四	七八七	一七九	四九二	一七九	六三	一六	三一七	七	八一六
蘭領東印度		三五六	六	二四	一	八	一	二	二〇六	一六	一五八
英領馬來		五九八	一九	二三九	一	一三	四	三	一三一	三六	九二
英領北ボルネオ		一七四	一八	一四〇			一		六		一四三
英領印度		四三			四	六			八	八	二七
英領香港及租借澳門		一一七	一								
佛領印度支那		三									
暹羅		二五	一								
英領加奈陀		一〇五	四七	一							
墨西哥		八〇	五								
巴奈馬		三									
錫蘭		一									
玖瑪		九	一								
伯剌西爾		三、九六〇	三、九一四	四七三	一一八	一、一四五	三九一	一、一四五	一、一四五	一、一四五	一、一四五
秘露											

目的別	總數	總數	農業	漁業	鑛業	製造業	土木建築業	運輸交通業	商業	家内労働者	その他
亞爾然丁		一一三	五〇								
暮利比亞		一一									
智利		九									
エル・サルバドル		二									
濠洲及新西蘭		一〇五	五	八九							
佛領ニューカレドニヤ		四	二								
大洋洲諸島		一									
コロンビヤ		二									
ヴエネズエラ		三									
緬甸		一									
英領南阿弗利加		三									
英領東阿弗利加		一									
其他		二									

七〇　渡航費補助移民

農業移民として南米へ渡航する者に對し、出發地より目的地に上陸する迄の船賃全額が補助される。渡航費は原則として五十歳以下の夫婦と、十二歳以上の子女を以て家族を構成するものに補助される。夫婦又は單獨移民にも補助金は支給されるが其の順位が後れる。渡航費補助は大正十二年關東大震災の後、其の罹災者で伯國へ移住する者に對し船賃を支給した事に始まり、翌十三年からは一般移住者にも及ぼすことになつた。

昭和九年度

		人員	渡航奬勵金（円）
總數		二、〇三五	三、一六七、六九五
海外興業株式會社		一九、二五一	二、八七五、五〇〇
信濃海外協會		—	—
富山縣海外移民協會		—	—
鳥取縣海外協會		—	—
熊本海外協會		—	—
南米拓殖株式會社		二一七	二四、〇五〇
海外移住組合聯合會		一、四八八	二二七、四〇〇
アマゾニヤ産業研究所		一〇八	二八、五六五
日本力行會海外學校		六二	一三、二〇〇
日本高等拓殖學校		—	—
其他		—	—

開始より昭和八年度迄

	人員	渡航奬勵金（円）
總數	一三〇、五八四	一九、三二四、三七九
海外興業株式會社	一三〇、九四五	一七、九一一、四四二
信濃海外協會	八五〇	一三三、三五〇
富山縣海外移民協會	二一七	二八、八五〇
鳥取縣海外協會	一三五	一八、六五〇
熊本海外協會	一九四	三〇、三〇〇
南米拓殖株式會社	二、〇二七	四〇〇、二八五
海外移住組合聯合會	五、二四四	八〇〇、三〇〇
アマゾニヤ産業研究所	三一八	八四、四六二
日本力行會海外學校	二五五	五〇、〇六〇
日本高等拓殖學校	二一〇	五五、八九八
其他	一六九	二一、七八二

七一　海外在留本邦人

昭和九年十月一日現在

	總數	亞細亞洲	歐羅巴洲	北亞米利加洲	南亞米利加洲	阿弗利加洲	太洋洲
總數	一、六四一、〇四一	一、〇三二、二八四	二、〇〇九	三六、〇三一	二〇八、六三五	二〇一	二、八三二
男	八九八、四四〇	五九二、一四九	一、四九四	一八〇、三四一	一三〇、一八五	一九九	二、四八八
女	七五二、六〇一	四四〇、一三五	八六〇	一四五、六九五	八八、四五五	八二	三六四
内地人 總數	八七二、八一四	三三九、九九八	二、〇〇九	三六、〇三一	二〇八、六三五	二〇一	二、八三二
男	四九七、二九八	一九七、四一七	一、四九四	一八〇、三四一	一三〇、一八五	一九九	二、四八八
女	三七五、五一六	一四二、五八一	八六〇	一四五、六九五	八八、四五五	八二	三六四
朝鮮人 總數	七二七、一八五	七一九、二四八	四、七一	二、〇八、二〇〇			
男	三九三、〇九七	三八七、六九一	二、七四	一一九、九一二			
女	三三四、〇八八	三三一、五五七	一、九七	八八、二八八			
臺灣人 總數	一四、〇四三	一四、〇三八	四六	七、四二〇			
男	八、〇四五	八、〇四一	四二	五、〇九〇			
女	五、九九七	五、九九七	四	二、三三〇			
備考							

本表には南洋群島、關東州及南滿洲鐵道附屬地内に在住する本邦人を除外する尚本表に揭ぐるもの、外樺東露領には十萬内外の朝鮮人の在住者ある見込である。